
帝京平成大学薬学部年報

Annual Report of Faculty of Pharmaceutical Sciences

Volume 1 2018



帝京平成大学薬学部
Faculty of Pharmaceutical Sciences
Teikyo Heisei University

「帝京平成大学薬学部年報 2018年度」発刊にあたって

帝京平成大学薬学部は、2004年4月に4年制薬学部として設立され、2006年には6年制に改組、今年度で16年が経過しようとしている若い学部である。この間、2013年4月には、東京、中野にキャンパスを開設、移転して現在に至っている。この年月の間には、若い大学が潜り抜けねばならない難しい時期もあったが、特に、中野に移転した後、教育・研究の基盤や教員組織が整備され、大学の使命とされる教育、研究、社会貢献の体制が整えられた。このような状況の中で、2018年度、薬学教育評価機構による第三者評価を受審し、2019年3月、評価基準に適合していると認定された。しかしながら、いくつかの改善事項も指摘されており、特に、不断に自己点検・評価を行う体制の整備が求められた。そのような体制は、日本社会における様々なステークホルダーに対する説明責任を果たすうえで、欠くことができない。本学部でも、これまで年度始めの方針説明に加え、過年度の実績を学部内へ周知し、次なる改善策を立案・実施してきたが、点検・評価報告書の作成や公表が十分であったとは言えない。そこで、この度の薬学教育評価機構の指摘も踏まえ、これまでの自己点検・評価と情報公表の仕組みを見直すこととした。自己点検・評価は、客観的で具体的な根拠に基づいて行われて、初めて実効性を持つものとなり、また、社会からの信頼も得られるものとなる。今回の「帝京平成大学薬学部年報 2018年度」は、本学部教員と事務職員の力が結集されて実現した、教育研究や社会貢献など、学部の現在の姿を示すものである。今後、このような年報を基に自己点検・評価を行い、本学部の更なる成長に繋げてゆく方針である。

帝京平成大学薬学部長 安西 偕二郎

目次

第1章 薬学部薬学科

1. 教育方針

- (1) 帝京平成大学の教育方針 1
- (2) 薬学部の教育研究上の目的 2
- (3) 四つのポリシー 2

2. 薬学部の運営組織

- (1) 薬学部運営組織図 5
- (2) 薬学部部門・ユニット編成 6
- (3) 薬学部教員 7
- (4) 学年担任 8

3. 教育活動

- (1) 開講科目 9
- (2) 在籍者数 14
- (3) 学籍異動 15
- (4) 卒業者数 16
- (5) 入学者数 17
- (6) 学年歴 18
- (7) 教育行事
 - 1) 早期体験学習 20
 - 2) 共用試験 23
 - 3) 実務実習終了報告会 24
 - 4) 卒業研究発表会 25
 - 5) 薬剤師国家試験 33
 - 6) 薬学業界セミナー 34
 - 7) オレンジバルーンフェスティバル 35
 - 8) 薬物乱用防止キャンペーン 37
 - 9) 卒後教育 38
- (8) その他の行事
 - 1) 保護者会 39
 - 2) 公開講座 40
 - 3) FD/SD活動 41
 - 4) 防災訓練 42
 - 5) 実務実習全体説明会 43

4. 研究活動

- (1) 研究発表 44
- (2) 研究交流会 45

第2章 大学院薬学研究科

1. 教育活動

(1) 研究科教員	46
(2) 入学者数・修了者数・学位授与者数	46
(3) 在籍者数	46
(4) 学年歴	46
(5) 学位授与論文題目等	47

第3章 薬学部運営組織の活動

1. 担当会議	48
2. 運営会議	57
3. 委員会活動	
(1) 薬学部教務委員会	68
(2) カリキュラム委員会	72
(3) 薬学部学生委員会	73
(4) 薬学部就職委員会	75
(5) 薬学部研究委員会	76
(6) 薬学部広報委員会	77
(7) 薬学部自己点検委員会	80
(8) C B T委員会	83
(9) O S C E委員会	85
(10) 事前学習委員会	87
(11) 実務実習委員会	89
(12) 卒業研究委員会	91
(13) 薬学部F D委員会	94
(14) 早期体験委員会	95
(15) セミナー委員会	96
(16) 薬剤師国家試験委員会	98
(17) 総合試験実行委員会	99
(18) 薬学教育検証委員会	100
(19) 研究安全委員会	101
(20) 薬学教育研究センター運営委員会	103
(21) 社会薬学教育研究センター運営委員会	104
(22) 薬学臨床教育研究センター運営委員会	105

第1章 薬学部薬学科

1. 教育方針

(1) 帝京平成大学の教育方針

帝京平成大学の建学の精神

実学の精神を基とし
幅広い知識と
専門分野における
実践能力を身につけ
創造力豊かな逞しい
人間愛にあふれた
人材を養成する

帝京平成大学の基本理念

1. 人文・社会科学と自然科学に均整のとれた教養教育を通して人間愛を培い、広聴心を涵養し、専門的能力を人類の幸福・福祉のための的確に適用できる健全な人格を養成する。
2. 自立と不撓不屈の精神を養い、実学的に幅広く高度な専門知識と学際的な問題解決能力を備え、創造性に富む人材を育成する。
3. 専門の学術を深く研究して成果を世界的に発信するとともに、大学の人材、施設を活用して地域社会との交流と貢献に努め、人類の発展に寄与する。

帝京平成大学の使命・目的

帝京平成大学は建学の精神に則り、広く知識を授け人格の陶冶を図るとともに、深く専門の学術を教授・研究し、国際的視野に立って日本国の発展に貢献できる有為な人材を養成することを目的とする。

(2) 薬学部の教育研究上の目的

薬学部薬学科は、「建学の精神に則り、医療職としての使命感、および社会への広い視野を備え、薬物療法の専門職として人と社会に貢献できる薬剤師を養成する」ことを目的として、以下に示す知識・技能・態度領域の力を醸成するための教育・研究を行う。

- 1) 医療職としての心構えを有して、主体的に課題に取り組む力。
- 2) 薬学の専門知識・技能・態度を総合的に活用する力。
- 3) 患者・生活者の健康に係る問題の解決に向け、薬物療法の専門職として行動する力。
- 4) 他の医療職とコミュニケーションをとり、患者・生活者中心の視点を有して連携・協働する力。
- 5) 医療、地域、社会における問題や課題を発見・解決する論理的思考力、判断力、行動力と、生涯に亘りそれを高めてゆく意欲。

(3) 四つのポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）および教育検証・評価の方針（アセスメント・ポリシー）は、以下のとおりである。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学部薬学科は、建学の精神をもとに、医療職としての使命感、および社会への広い視野を備え、薬物療法の専門職として人と社会に貢献できるようになる、以下の薬学の専門的な知識・技能・態度を身につけた者に学位を授与する。学士（薬学）

- 1) 医療職としての心構えを有して、主体的に課題に取り組むことができる。
- 2) 薬学の専門知識・技能・態度を総合的に活用することができる。
- 3) 患者・生活者の健康に係る問題の解決に向け、薬物療法の専門職として行動できる。
- 4) 他の医療職とコミュニケーションをとり、患者・生活者中心の視点を有して連携・協働できる。
- 5) 医療、地域、社会における問題や課題を発見・解決する論理的思考力、判断力、行動力を備え、生涯にわたりそれを高めてゆく意欲を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

薬学部薬学科は、建学の精神と卒業認定・学位授与の方針に掲げた目標を達成するため、以下のようなカリキュラムを編成し授業を行う。

- 1) 薬学の基礎となる、人・文化・社会への広い視野と多角的な理解力を身につけるため人文系と社会系の科目を配置する。
- 2) 総合科学・薬学に対する準備教育として、数学、化学系・生物系・物理系基礎科目を配置する。
また、大学と社会で活用する英語とコンピュータ演習を配置する。

- 3) 薬学の専門科目を系統性、体系性に基いて配置する。また、それらの内容に関連する実験実習科目を配置し、知識の修得に実践を組み合わせて確かな専門知識と技能を身につける。
- 4) 本学に独自の「セミナー科目」を各学年に配置し、6年をかけて医療職としての態度を涵養する。それらの態度教育と他の知識・技能教育との融合をはかり、医療現場における実践力の向上に繋げる。
- 5) 自ら考え、判断して薬物療法を実践できるようになるため、5年次に病院・薬局で実務実習を行う。実務実習での成果を高めるため、4年次に実務実習の事前学習を薬学臨床準備教育として配置する。
- 6) 卒業研究を4年次から6年次に配置する。薬学専門科目や実務実習の学修を総合的に活用し、未知の問題を解決する、創造力にあふれた知識・技能・態度、および研究倫理を修得する。また、それらの力を生涯にわたって高め続ける意欲を身につける。
- 7) 体験学習や、地域の医療職に直接学ぶことを重視する。そのことにより、医療、地域、社会が求めているものをリアルに把握し、目標を明確にして学修意欲を高めてゆく。
- 8) セミナー科目を始めとする専門科目では、レポートによる文章表現や少人数の討論に発表を組み合わせた能動的学習法を重視し、主体性、傾聴力、協働性を高めてゆく。
- 9) 実務実習の事前学習、および実務実習では、パフォーマンスに関する形成的評価のフィードバックも踏まえ、目標とされる医療の実践能力について総括的評価を行う。
- 10) 卒業研究では、課題の進捗度やパフォーマンスの質について形成的評価を繰り返し、課題解決に必要な論理的思考力と判断力を醸成する。また、総括的評価では、口頭発表、あるいはポスター発表による表現力に加え、卒業論文を重視する。
- 11) パフォーマンスに関する形成的評価と総括的評価には、ポートフォリオとルーブリックを活用する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

薬学部薬学科は、教育目的として掲げた、「医療職としての使命感、および社会への広い視野を備え、薬物療法の専門職として人と社会に貢献できる薬剤師を養成する」ため、以下のような入学者を求める。

- 1) 帝京平成大学の建学の精神、および薬学部の教育方針と目標、教育内容と方法を理解し、本学部で学修する熱意と意欲を有している。
- 2) 高等学校の学習やクラブ活動などの経験を、本学部での学園生活を実りあるものにするために活かしてゆこうとする、肯定的な姿勢を有している。
- 3) 薬学を学修するための、化学、生物、物理、数学に関する基礎学力を持ち、入学後もそれらを薬学で必要とされるレベルまで高めてゆこうとする積極性を有している。
- 4) 薬物療法の専門職として、医療、地域、社会に貢献しようとする倫理観と、意欲を有している。

- 5) 薬学教育において修得した知識・技能・態度を、社会的な責任という視点から、生涯にわたって高めてゆこうとする主体性を有している。

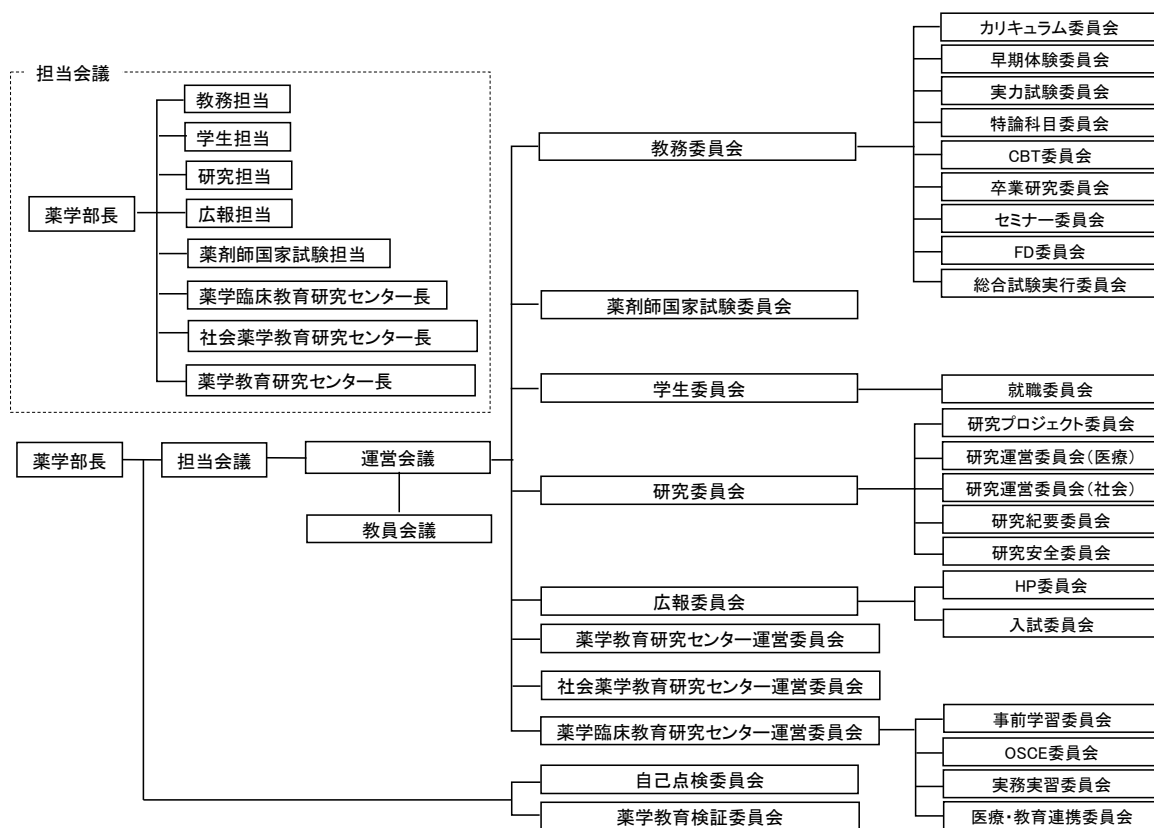
教育検証・評価の方針（アセスメント・ポリシー）

薬学部 薬学科は、教育・研究上の目的、及び目標とする力の達成度を、以下の方針に基いて検証・評価する。

- 1) 本学科の教育・研究上の目的、及び目標とする力に関する総合的な達成度は、次の能力指標に基く学修目標達成度調査によって検証・評価する。
 - ① 専門的な知識と技能
 - ② 医療職としての心・態度
 - ③ 薬学・医療に関する研究能力
 - ④ 医療における実践力
- 2) 知識・技能領域における学生の達成度と教育課程の検証・評価には、授業科目の成績水準や GPA に加え、共用試験、卒業試験、薬剤師国家試験の成績を用いる。
- 3) 態度領域の能動的な教育で行われるパフォーマンスの形成的評価と総括的評価には、ルーブリックを活用する。ルーブリックの観点と評価尺度によって学生が達成度と自らの課題を自覚し、次の目標設定を行えるようにする。
- 4) ポートフォリオによる振り返りと教員によるアドバイスを組合せ、学生が自らの思考・判断・行動を客観的に認識できるようにする。
- 5) 能力指標に基く学修目標達成度調査によって学生が各学年を振り返り、認知・情意領域における成長を自覚できるようにする。
- 6) 卒業時や学期の終了時に行う学修目標達成度調査は、教育・研究上の目的、及び目標とする力に関する達成度の総括的評価として、教育課程の改善にも活用する。

2. 教育活動

(1) 薬学部運営組織図



(2) 薬学部部門・ユニット編成

部門名	ユニット名	所属教員
細胞機能教育研究部門	細胞生化学	辻本 雅文、大西 敦、後藤 芳邦、青木 一真
	膜機能	矢ノ下 良平、池本 守、小川 裕子
	分子細胞制御	高橋 美樹子、金 憲誠
	遺伝子機能解析	小林 秀昭
生体防御教育研究部門	抗体 DDS	石田 功、斎藤 浩美、平 裕一郎、平 郁子、西川 毅 磯田 勝広、大野 まき、清水 芳実、建部 卓也
	タンパク質科学	西村 千秋
医薬品機能教育研究部門	薬物動態学	水間 俊、濱田 和真、中埜 貴文
	医薬解析学	栗原 健一、鈴木 達彦、渡邊 丈夫、谷 紀彦
	物理薬剤学	石坂 隆史、渡辺 達也、山本 佳久
	薬理学	清水 俊一、山本 伸一郎、戸田 雄大
	薬物治療学	秋山 晴代、高崎 浩太郎
	生理・病態学	石井 正和、山元 健太、石橋 正祥
	薬品分析学	伊佐間 和郎、岸 智裕
	医薬有機化学	小松 俊哉、名取 威徳、赤木 祐介
社会薬学教育研究センター	薬事・情報学	白神 誠、渡邊 伸一
	医療経済学	荒川 一郎
	リスク評価学	西村 哲治
	医薬品安全評価学	濃沼 政美、高木 彰子
	医療倫理学	田村 京子
	薬局機能評価学	鈴木 政雄、福島 紀子
薬学臨床教育研究センター	病院薬学	水野 恵司、井手口 直子、飯島 道生、栗林 和美
	地域薬局学	高山 信子
	地域健康管理学	中村 均、清野 敏一、島崎 学、世永 由里子
薬学教育研究センター	薬学基礎教育（生物系）	小池 勝也
	薬学基礎教育（化学系）	鈴木 英治
	薬学基礎教育（物理系）	羽野 芳生、嶋原 淳、横川 壽彦
	医療薬学系教育	稲津 教久、土屋 静子、石井 竹夫、清水 秀行

(3) 薬学部教員

薬学部長			
安西 偕二郎			
教授 (35名)	准教授 (16名)	講師 (12名)	助教 (8名)
荒川 一郎	飯島 道生	青木 一真	赤木 祐介
伊佐間 和郎	池本 守	秋山 晴代	石橋 正祥
石井 正和	石井 竹夫	大野 まき	岸 智裕
石坂 隆史	磯田 勝広	金 憲誠	清水 芳実
石田 功	大西 敦	栗林 和美	高木 彰子
井手口 直子	小川 裕子	島崎 学	建部 卓也
稲津 教久	後藤 芳邦	高崎 浩太郎	谷 紀彦
栗原 健一	鈴木 達彦	高山 信子	世永 由里子
小池 勝也	平 郁子	戸田 雄大	
濃沼 政美	平 裕一郎	中埜 貴文	
小林 秀昭	西川 毅	山元 健太	
小松 俊哉	濱田 和真	山本 伸一郎	
斎藤 浩美	山本 佳久		
鳴原 淳	横川 壽彦		
清水 俊一	渡邊 丈夫		
清水 秀行	渡辺 達也		
白神 誠			
鈴木 英治			
鈴木 政雄			
清野 敏一			
高橋 美樹子			
田村 京子			
辻本 雅文			
土屋 静子			
中村 均			
名取 威徳			
西村 千秋			
西村 哲治			
根来 孝治			
羽野 芳生			
福島 紀子			
水野 恵司			
水間 俊			
矢ノ下 良平			
渡邊 伸一			

五十音順

(4) 学年担任

担任制度によって学生指導を行っている。4年次以降の実際の学生指導は、卒業研究の指導教員が行っている（チューター制度）。

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学年主任	根来 孝治 (5月まで) 渡邊 伸一 (6月から)	稲津 教久	土屋 静子	羽野 芳生	清野 敏一	矢ノ下 良平 石坂 隆史
担任	秋山 晴代 伊佐間 和郎 大西 敦 大野 まき 後藤 芳邦 島崎 学 鈴木 英治 平 裕一郎 谷 紀彦 田村 京子 戸田 雄大 水野 恵司 水間 俊 山本 佳久 渡辺 達也	青木 一真 赤木 祐介 飯島 道生 石橋 正祥 金 憲誠 栗原 健一 小林 秀昭 斎藤 浩美 高崎 浩太郎 高橋 美樹子 建部 卓也 辻本 雅文 名取 威徳 西川 毅 西村 千秋 世永 由里子	荒川 一郎 池本 守 石井 正和 井手口 直子 小川 裕子 岸 智裕 小松 俊哉 嶋原 淳 清水 芳実 鈴木 達彦 中埜 貴文 濱田 和真 山元 健太 山本 伸一郎 渡邊 丈夫	石井 竹夫 石田 功 磯田 勝広 高山 信子	栗林 和美 濃沼 政美 白神 誠 高木 彰子 中村 均	小池 勝也 清水 俊一 平 郁子 西村 哲治

五十音順

3. 教育活動

(1) 開講科目

1 年次から 6 年次までの開講科目を掲載した。開講期は、①前期または後期に開講する Semester 制、②学年を 4 分割した期間に開講されるクォーター制（1 Q～4 Q と表記）、③前・後期にわたる通年開講の 3 種類を用いている。なお、クォーター制は 2017 年度から薬学部において実施している。

1 年次 開講科目	開講期	担当教員
英語 IA	前期	平 郁子、平 裕一郎、栗林 和美、高木 彰子
英語 IB	後期	栗林 和美、平 郁子、平 裕一郎、高木 彰子
科学数学	前期	渡邊 丈夫
薬学数学	後期	渡邊 丈夫
化学系薬学概論	前期	名取 威徳
物理系薬学概論	前期	嶋原 淳
看護学入門	前期	看護学科教員
分析化学概論	前期	渡辺 達也
生物系薬学概論 I	前期	後藤 芳邦
生物系薬学概論 II	後期	青木 一真、金 憲誠
フレッシュセミナー IA	前期	田村 京子、鈴木 政雄、石坂 隆史、渡邊 伸一、福島 紀子
フレッシュセミナー IB	後期	荒川一郎、山本 佳久、鈴木 政雄、田村 京子、飯島 道生、渡邊 丈夫、高崎 浩太郎、井手口 直子
医療倫理入門	前期	田村 京子
薬学入門	前期	安西 偕二郎、石田 功、鈴木 政雄、清野 敏一、田村 京子、中村 均、水野 恵司、渡邊 伸一、荒川 一郎、石井 竹夫、飯島 道生、栗林 和美、山本 佳久
薬品分析化学 I	後期	渡辺 達也
基礎化学	後期	栗原 健一
基礎有機化学	後期	鈴木 英治、谷 紀彦
人体の構造・機能	後期	石井 正和、石橋 正祥
生体分子の化学	後期	池本 守
タンパク質の構造・機能	後期	小池 勝也
生物統計学	後期	荒川 一郎、高木 彰子
薬学基礎実習	後期	稲津 教久、荒川 一郎、伊佐間 和郎、大西 敦、平 裕一郎、後藤 芳邦、大野 まき、山元 健太、岸 智裕

2年次 開講科目	開講期	担当教員
フレッシュセミナーⅡA	前期	荒川 一郎、濃沼 政美、鈴木 政雄、福島 紀子
フレッシュセミナーⅡB	後期	井手口 直子、清野 敏一、鈴木 政雄
英語ⅡA	前期	平 郁子、山元 健太、清水 芳実、金 憲誠
英語ⅡB	後期	山元 健太、平 郁子、石田 功、高橋 美樹子
薬品物理化学Ⅰ	2Q	羽野 芳生
薬品物理化学Ⅱ	3Q	嶋原 淳
有機化学Ⅰ	2Q	栗原 健一
有機化学Ⅱ	3Q	小松 俊哉、赤木 祐介
有機構造解析	4Q	名取 威徳
薬品分析化学Ⅱ	1Q	嶋原 淳
薬用植物学	3Q	石井 竹夫
化学系実習Ⅰ	前期	羽野 芳生、小松 俊哉、栗原 健一、渡辺 達也、谷 紀彦、 赤木 祐介
生体の機能調節	1Q	山元 健太
細胞生物学	4Q	辻本 雅文
微生物学	4Q	斎藤 浩美
遺伝子の構造・機能	1Q	大西 敦
代謝とエネルギー産生	3Q	安西 偕二郎
生理活性物質とシグナル伝達	2Q	高橋 美樹子
生物系実習Ⅰ	前期	石井 竹夫、鈴木 達彦、磯田 勝広、斎藤 浩美、金 憲誠、 清水 芳実
公衆衛生と健康	4Q	矢ノ下 良平
栄養と健康	前期	大野 まき
病態生理学Ⅰ	後期	小林 秀昭
薬理学Ⅰ	2Q	清水 俊一
薬理学Ⅱ	3Q	戸田 雄大
薬理学Ⅲ	4Q	清水 俊一
アロマセラピー（選択）	後期	石井 竹夫

3年次 開講科目	開講期	担当教員
アドバンスセミナー I A	前期	根来 孝治、井手口 直子、石橋 正祥、山本 佳久、秋山 晴代、戸田 雄大、鈴木 政雄
アドバンスセミナー I B	後期	西村 哲治、矢ノ下 良平、白神 誠、小川 裕子、大野 まき
英語Ⅲ	前期	平 郁子、小林 秀昭、大野 まき、建部 卓也
有機化学Ⅲ	1Q	鈴木 英治
生体有機化学	3Q	名取 威徳
生薬学	2Q	鈴木 達彦
化学系実習Ⅱ	前期	矢ノ下 良平、小川 裕子、池本 守、秋山 晴代、濱田 和真、中埜 貴文、山本 佳久、小田切 脩（非常勤講師）
医薬品合成化学	後期	鈴木 英治
免疫学	3Q	西川 毅
生物系実習Ⅱ	前期	土屋 静子、清水 俊一、小林 秀昭、高崎 浩太郎、山本 伸一郎、青木 一真、戸田 雄大、建部 卓也
食品と健康	1Q	矢ノ下 良平
化学物質と健康	3Q	小川 裕子
生活環境と健康Ⅰ	2Q	西村 哲治
生活環境と健康Ⅱ	4Q	西村 哲治
サプリメント	後期	石井 竹夫
病態生理学Ⅱ	前期	石井 正和、石橋 正祥
薬理学Ⅳ	3Q	山本 伸一郎
薬物治療学Ⅰ	1Q	稲津 教久、世永 由里子
薬物治療学Ⅱ	2Q	高崎 浩太郎
薬物治療学Ⅲ	4Q	根来 孝治、秋山 晴代
物理薬剤学	1Q	石坂 隆史
医薬品の安全性	4Q	稲津 教久
生物薬剤学	2Q	水間 俊
薬物動態解析	3Q	水間 俊
製剤学	2Q	高山 信子
応用製剤学	4Q	濱田 和真、中埜 貴文
漢方薬	4Q	鈴木 達彦
社会保障論	1Q	荒川 一郎
薬事関係法規	後期	渡邊 伸一、鈴木 政雄
調剤学	後期	飯島 道生

4年次 開講科目	開講期	担当教員
英語Ⅳ	前期	平 郁子、渡邊 伸一、大江パトリシア（非常勤講師）
アドバンスセミナーⅡ	前期・後期	濃沼 政美、水野 恵司、中村 均、高山 信子、高木 彰子
地域医療と法制度	前期	山本 佳久、荒川 一郎、福島 紀子、渡邊 伸一
日本薬局方	2Q	伊佐間 和郎
医薬化学	1Q	小松 俊哉
感染症と化学療法	1Q	石田 功
バイオテクノロジー	後期	磯田 勝広
薬物治療学Ⅳ	2Q	秋山 晴代
臨床検査学	1Q	嶋原 淳、稲津 教久、伊佐間 和郎、渡邊 丈夫
医薬品情報学	前期	濃沼 政美、荒川 一郎
セルフメディケーション	後期	島崎 学
病院薬学	前期	水野 恵司
医療薬学	1Q	中村 均
処方解析	前期	清野 敏一
薬学臨床実習Ⅰ	前期・後期	濃沼 政美、水野 恵司、中村 均、山本 佳久、小池 勝也、 渡邊 丈夫、高山 信子、高木 彰子
卒業研究	4～6年	全教員
病態治療統合講義Ⅰ	前期	池本 守
病態治療統合講義Ⅱ	前期	平 郁子
病態治療統合講義Ⅲ	後期	平 裕一郎
物理系薬学特論	後期	渡辺 達也、石坂 隆史、伊佐間 和郎
化学系薬学特論	後期	小松 俊哉、石井 竹夫、羽野 芳生、名取 威徳、赤木 祐介、 谷 紀彦
衛生薬学特論	後期	矢ノ下 良平、西村 哲治、小川 裕子、大野 まき
生物系薬学特論	後期	辻本 雅文、磯田 勝広、西川 毅、金 憲誠
薬物治療学特論	後期	稲津 教久、土屋 静子、石井 竹夫、高崎 浩太郎
薬剤学特論	後期	高山 信子、水間 俊、濱田 和真、中埜 貴文
薬学臨床特論	後期	白神 誠、田村 京子、飯島 道生、栗林 和美、荒川 一郎

5年次 開講科目	開講期	担当教員
臨床薬学実習Ⅱ	前期・後期	全教員

6年次 開講科目	開講期	担当教員
アドバンスセミナーⅢ	前期・後期	石田 功、西村 千秋、磯田 勝広、大西 敦、小川 裕子、 後藤 芳邦、平 裕一郎、西川 毅、濱田 和真、山本 佳久、 大野 まき、金 憲誠、中埜 貴文、山本 伸一郎、清水 芳実
医薬品の開発と生産	前期・後期	磯田 勝広、荒川 一郎、石田 功、小松 俊哉、白神 誠、 鈴木 政雄、辻本 雅文、名取 威徳、石井 竹夫、鈴木 達彦、 平 郁子、山本 佳久、高崎 浩太郎、中埜 貴文
チーム医療論と実際	前期・後期	井手口 直子、鈴木 政雄、山元 健太
新薬論と薬学領域	前期・後期	矢ノ下 良平、伊佐間 和郎、石田 功、鈴木 政雄、池本 守、 石井 竹夫、濱田 和真、高崎 浩太郎
薬学総括講義Ⅰ	前期・後期	清水 俊一、栗原 健一、小松 俊哉、鈴木 英治、土屋 静子、 名取 威徳、鈴木 達彦、戸田 雄大、山本 伸一郎
薬学総括講義Ⅱ	前期・後期	石坂 隆史、伊佐間 和郎、嶋原 淳、羽野 芳生、水間 俊、 濱田 和真、高山 信子、中埜 貴文
薬学総括講義Ⅲ	前期・後期	斎藤 浩美、荒川 一郎、石井 正和、石田 功、稲津 教久、 小池 勝也、清水 俊一、高橋 美樹子、池本 守、秋山 晴代、 高崎 浩太郎、山元 健太、石橋 正祥
薬学総括講義Ⅳ	前期・後期	矢ノ下 良平、荒川 一郎、田村 京子、西村 哲治、渡邊 伸一、 小川 裕子、大野 まき
アドバンスセミナーⅣ	前期・後期	中村 均、井手口 直子、濃沼 政美、清野 敏一、水野 恵司、 飯島 道生、山本 佳久、栗林 和美、島崎 学、高山 信子
薬学特別演習Ⅰ	前期・後期	清野 敏一、荒川 一郎、濃沼 政美、飯島 道生、栗林 和美、 島崎 学、高崎 浩太郎、高木 彰子
薬学特別演習Ⅱ	前期・後期	清野 敏一、荒川 一郎、濃沼 政美、飯島 道生、栗林 和美、 島崎 学、高崎 浩太郎、高木 彰子
特別総合演習	前期・後期	嶋原 淳、石坂 隆史、斎藤 浩美、鈴木 英治、西村 哲治、 池本 守、濱田 和真、秋山 晴代、大野 まき、高崎 浩太郎、 山本 伸一郎

(2) 在籍者数

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		240	240	240	240	240	240
入学時の学生数 ²⁾	A	232	240	241	248	242	253
在籍学生数 ³⁾	B	243	239	229	226	226	322
過年度在籍者数 ⁴⁾	C	11	24	26	22	30	123
編入学などによる在籍者数	D	0	0	0	0	1	0
ストレート在籍者数 ⁵⁾	E	232	215	203	204	195	199
ストレート在籍率 ⁶⁾	E/A	1.00	0.90	0.84	0.82	0.81	0.79
過年度在籍率 ⁷⁾	C/B	0.05	0.10	0.11	0.10	0.13	0.38

1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員

2) 当該学年が入学した時点での実入学者数

3) 5月1日現在における各学年の在籍学生数

4) 在籍学生数のうち、各学年の過年度在籍者数

5) (在籍学生数) - {(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)} を記載
(E={B-(C+D)})

6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載

7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載

(3) 学籍異動

		2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	250	255	245	247	243
	留年者数 ²⁾	7	4	8	8	17
	休学者数 ³⁾	0	0	0	2	0
	退学者数 ⁴⁾	18	12	9	15	16
	進級率 ⁵⁾	0.90	0.94	0.93	0.90	0.86
2年次	在籍者数 ¹⁾	277	248	254	240	239
	留年者数 ²⁾	21	13	12	18	31
	休学者数 ³⁾	1	2	0	0	1
	退学者数 ⁴⁾	16	14	13	10	18
	進級率 ⁵⁾	0.86	0.88	0.90	0.88	0.79
3年次	在籍者数 ¹⁾	246	266	241	245	229
	留年者数 ²⁾	25	18	15	16	18
	休学者数 ³⁾	4	3	1	1	2
	退学者数 ⁴⁾	12	13	8	8	8
	進級率 ⁵⁾	0.83	0.87	0.90	0.90	0.88
4年次	在籍者数 ¹⁾	194	230	245	240	226
	留年者数 ²⁾	23	12	18	6	11
	休学者数 ³⁾	2	1	4	1	0
	退学者数 ⁴⁾	10	12	5	9	6
	進級率 ⁵⁾	0.82	0.89	0.89	0.93	0.92
5年次	在籍者数 ¹⁾	185	163	214	226	226
	留年者数 ²⁾	4	7	8	0	0
	休学者数 ³⁾	0	2	0	2	0
	退学者数 ⁴⁾	0	3	3	0	1
	進級率 ⁵⁾	0.98	0.93	0.95	0.99	1.00

1) 当該年度5月1日現在における各学年の在籍学生数

2) 在籍学生数のうち、留年となった学生数

3) 在籍学生数のうち、休学歴があり、かつ留年となった学生数

4) 在籍学生数のうち、退学となった学生数

5) 進級率は、次式で計算した結果を、小数点以下第2位まで記載

$$\{(在籍者数) - (休学者数 + 退学者数 + 留年者数)\} / (在籍者数)$$

(4) 卒業者数

		2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
卒業判定時（年度末）の在籍学生数 ¹⁾ A		205	182	149	205	245
学士課程修了（卒業）者数 B		116	78	77	109	168
卒業率 ²⁾ B/A		0.57	0.43	0.52	0.53	0.69
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	92	78	74	107	160
	7年	16	0	2	2	6
	8年	6	0	0	0	2
	9年以上	2	0	0	0	0
入学時の学生数（実入学者数） ⁴⁾ D		235	225	199	265	253
ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D		0.39	0.35	0.37	0.40	0.63

1) 9月卒業などの卒業延期生、休退学者を除いた6年次の在籍学生数

2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値 (B/A) を小数点以下第2位まで記載

3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載

4) それぞれの年度の6年次学生 (C) が入学した年度の実入学者数（編入学者を除く）を記載

5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値 (C/D) を、小数点以下第2位まで記載

(5) 入学者数

入学年度		2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	平均値 6)
入学定員	A	240	240	240	240	240	240	
実入学者数 ¹⁾	B	253	242	248	241	240	232	243
入学定員充足率 ²⁾	B/A	1.05	1.01	1.03	1.00	1.00	0.97	1.01
編入学定員		2	2	2	2	2	0 ⁵⁾	
編入学者数 ³⁾	C+D+E	0	0	1	0	0	0	0
編入学した 学年別の内 数 ⁴⁾	2年次 C	0	0	1	0	0	0	0
	3年次 D	0	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0	0

1) 各年度の実入学者数

2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値（小数点以下第2位まで）を記載

3) 各年度に受け入れた編入学者（転学部、転学科などを含む）の合計数を記載

4) 編入学者数の編入学受け入れ学年別の内数を記載。薬学部では2年次編入を入学条件としていた。

5) 2018年度入学から編入学受け入れを廃止した。

6) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記載

(6) 学年歴

		4月	5月	6月	7月	8月	9月				
1	日	火	金	日	オープンキャンパス	水	前期(2Q)定期試験				
2	月	水	土	月		木	前期(2Q)定期試験				
3	火	専任教員説明会	木	憲法記念日	日	火	金	前期(2Q)定期試験			
4	水	入学式	金	みどりの日	月	1Q定期試験	水	土	火		
5	木	新入生ガイダンス	土	こどもの日	火	1Q定期試験	木	日	水		
6	金	上級生ガイダンス	日		水	1Q定期試験	金	月	前期(2Q)定期試験 実務実習Ⅱ期開始	木	
7	土	前期授業開始 (1Q開始)	月	実務実習Ⅰ期開始	木	1Q定期試験	土	火	前期(2Q)定期試験	金	後期授業開始 (3Q開始)
8	日		火	金	日		水		土		
9	月		水	土	月		木	CBT体験受験	日		
10	火		木	日	火		金		月		
11	水		金	月	水		土	山の日	火		
12	木		土	火	木		日		水		
13	金		日	水	金	第1回研究交流会	月		木		
14	土		月	木	土		火		金	前期追再試験成績 通知	
15	日		火	金	日		水		土	日本薬学会関東支部大会 (本学中野キャンパス)	
16	月		水	土	月	海の日	木		日		
17	火		木	日	火		金		月	敬老の日	
18	水		金	月	水		土	オープンキャンパス	火		
19	木		土	火	木		日	オープンキャンパス	水		
20	金		日	水	金		月	前期定期試験成績 通知	木		
21	土		月	木	土	オープンキャンパス	火	前期定期試験成績 通知	金	前期卒業式 薬用植物園見学	
22	日		火	金	日	オープンキャンパス	水		土	オープンキャンパス	
23	月		水	土	月	就職ガイダンス(5年 生)	木		日	秋分の日	
24	火		木	日	火		金		月	振替休日	
25	水	共用試験説明会 (4年生)	金	月	水		土	親子薬草教室	火		
26	木		土	新入生保護者会	火	木	日		水		
27	金		日	水	金		月	前期追再試験	木		
28	土	実務実習全体説明会 実務実習終了報告会	月	木	土	卒業研究発表会	火	前期追再試験	金	薬用植物園見学 (2年生)	
29	日	昭和の日	火	金	創立記念日	日	水	前期追再試験	土		
30	月	振替休日	水	土	月		木	前期追再試験	日		
31			木		火		金	前期追再試験			

		10月		11月		12月		1月		2月		3月
1	月		木		土	OSCE 説明会 (4年生)	火	元旦	金	後期追再試験(4年 生)	金	後期追再試験成績通知、 第3回研究交流会
2	火		金	3Q定期試験	日		水		土		土	
3	水		土	文化の日	月		木		日		日	無菌調製技能習得研 究会
4	木		日		火		金		月		月	後期再評価試験
5	金		月	3Q定期試験 実務実習Ⅲ期開始	水		土		火		火	後期再評価試験
6	土		火	3Q定期試験	木		日		水	薬学業界セミナー (5年生)	水	後期再評価試験
7	日		水		金		月	後期定期試験(4年 生)	木	薬学業界セミナー (5年生)	木	
8	月	体育の日	木		土		火	後期定期試験(4年 生)	金		金	
9	火		金		日	OSCE本試験	水	後期定期試験(4年 生)、卒業判定	土		土	
10	水		土	四季祭 オレンジバルーン	月		木	後期定期試験(4年 生)	日		日	無菌調製技能習得研 究会
11	木		日	四季祭 オレンジバルーン	火		金	後期(4Q)定期試験	月	建国記念の日	月	
12	金		月		水		土		火	後期追再試験	火	
13	土		火		木		日		水	後期追再試験 後期再評価試験	水	
14	日		水		金		月	成人の日	木	後期追再試験 後期再評価試験	木	
15	月		木		土		火	後期(4Q)定期試験	金	後期追再試験 後期再評価試験	金	
16	火	薬学教育評価訪問 調査	金		日		水	後期(4Q)定期試験	土		土	
17	水	薬学教育評価訪問 調査	土	OSCE評価者直前 講習会	月		木	後期(4Q)定期試験	日		日	卒業式
18	木		日		火		金	CBT本試験	月	後期追再試験	月	
19	金		月		水		土		火	CBT追再試験	火	
20	土		火		木		日		水		水	
21	日		水		金		月	後期定期試験 成績通知(4年生)	木		木	春分の日
22	月		木		土		火	後期定期試験 成績通知(4年生)	金	後期追再試験 成績通知(4年生)	金	
23	火		金	勤労感謝の日	日	天皇誕生日	水		土	OSCE追再試験	土	
24	水		土	中野区区民講座	月	振替休日	木		日		日	
25	木		日		火	CBT 説明会 (4年生)	金		月		月	
26	金		月		水		土		火		火	
27	土		火	総合防災訓練	木		日		水		水	
28	日		水		金		月	後期追再試験(4年 生)	木		木	
29	月		木		土		火	後期追再試験(4年 生)			金	
30	火		金	第2回研究交流会	日		水	後期追再試験(4年 生)			土	
31	水				月		木	後期追再試験(4年 生)			日	

(7) 教育行事

1) 早期体験学習

本薬学部では早期臨床体験の一環として、1年次後期に実施される「フレッシュセミナー I B」において地域の病院・薬局等の施設を訪問し、その重要性や課題を討議している。

2018年度は、下記のスケジュールで施設訪問を行った。

9月28日	早期体験訪問に当たっての心構え
	早期体験先訪問前の SGD：目標(課題)設定
10月5日	早期体験先訪問①
10月12日	早期体験先訪問②
10月19日	早期体験先訪問③
10月26日	早期体験先訪問④
11月2日	早期体験先訪問⑤
11月9日	早期体験先訪問⑥
11月16日	早期体験先訪問後の SGD：訪問の成果を討議
	発表会

① 早期体験学習を行った施設

学生は薬局及び施設(医療機関、製薬企業の研究所や工場など)を訪問することで、「様々な薬剤師の業務の見聞」を行っている。1人の学生あたり薬局1件とその他の施設1件を訪問した。薬局は中野区(8薬局)及び杉並区(15薬局)の地域薬局、並びに大手チェーン薬局(19薬局)の中から訪問した。また、その他の施設としては医療機関15施設、製薬企業の研究所や工場4施設、中野区保健所、中野区地域包括支援センター、医薬品卸の物流工場、化粧品会社の製造工場など各1施設となっている。訪問先一覧は、下記の表のとおりである。

2018年度 早期体験学習の訪問先一覧

薬局	アイファ薬局西荻店	ファーコス薬局江原店
	青葉調剤薬局	わかば薬局阿佐谷店
	アポロン薬局	みよの台薬局
	石井薬局	友愛薬局佐倉店
	サザン調剤薬局	友愛薬局酒々井店
	サザン調剤薬局浜田山店	友愛薬局茂原店
	佐野薬局	友愛薬局水戸店

薬局 (つづき)	四面道薬局	友愛薬局みらい平店
	シンワ薬局病院前店	友愛薬局松戸センター店
	スカイ薬局	友愛薬局南柏店
	すみれ薬局	友愛薬局馬橋駅前店
	そうごう薬局井荻店	友愛薬局大学前店
	たんぼぼ薬局野方店	セキ薬局白岡店
	トモズ新高円寺	汐田薬局
	ナカノ薬局	新つるみ薬局
	なごみ薬局	薬局くすりの福太郎豊洲店
	なごみ薬局本店	アイン薬局中野セントラルパーク店
	西荻みなみ薬局	アイン薬局西新宿店
	浜田山鈴薬局	クオール薬局大崎店
	はやし薬局	クオール薬局恵比寿店
	ファーコス薬局阿佐谷	お茶の水調剤薬局本店
	病院	松戸市立病院
東京医科大学八王子医療センター		国立国際医療研究センター病院
武蔵野療園病院		国立相模原病院
帝京大学ちば総合医療センター		国立災害医療センター
東海大学附属病院		川口市医療センター
東京警察病院		川口工業総合病院
あさひの丘病院		高島平中央病院
医療法人社団誠馨会 総泉病院		
企業・その他	ヤクルト 湘南化粧品工場	メディセオ配送センター
	武田薬品工業 湘南研究所	日本生科学研究所介護施設
	キンカン本舗	中野区保健所
	鳥居薬品 工場	中野区地域包括ケアセンター
	大正製薬	

② 早期体験学習での討論

施設訪問前後で学生は SGD を行い、訪問する目的および訪問することで得られた成果について話し合った。それらの成果に関して相互理解する目的で、発表会を実施した。

討論テーマは下記のとおりである。

早期体験学習の討論テーマ

あなたが訪問した施設について次のことを述べなさい。

- 訪問した施設の医療における役割と特徴は何か。
- その施設に勤務する薬剤師の役割は何か。
- 訪問前後で認識が変わった点は何か。

2) 共用試験

1. CBT

CBT 体験受験は、2018年8月9日（木）に実施した。当日は台風接近のため開始時間を1時間30分遅らせ、11時よりゾーン1試験を開始し、19時10分にゾーン3試験まで無事終了した。受験者数224名、欠席者数6名、試験監督教職員26名、モニター員1名（東京大学薬学部）であった。CBT 体験受験結果は8月20日に学生に配付した。

CBT 本試験は、2019年1月18日（金）に実施した。9時30分よりゾーン1試験を開始し、17時10分にゾーン3試験まで予定通りに終了した。受験者数224名、欠席者数4名、試験監督教職員26名、モニター員1名（東京大学薬学部）であった。CBT 本試験結果は1月24日に合格者には合否の通知のみ、不合格者には開示結果を返却した。

CBT 追再試験は、2019年2月19日（金）に実施した。9時30分よりゾーン1試験を開始し、17時10分にゾーン3試験まで予定通りに終了した。受験者数8名、試験監督教職員14名、モニター員1名（東京大学薬学部）であった。CBT 追再試験結果は2月23日に合格者には合否の通知のみ、不合格者には開示結果を返却した。

CBT 本試験と追再試験の合格基準は、総合得点率60%以上（310問中186点以上）とし、合格者は210名であった。

2. OSCE

OSCE 本試験は、2018年12月9日（日）に実施した。学生をA～Dの4グループに分け、AとBグループは午前に、CとDグループは午後に試験を行った。6ステーション（6レーン）と4つのレストで、2階実習室、3階調剤実習室と講義室、4階SGD室を試験会場とした。試験に要した人員は、評価者114名（本学教員15名、外部99名）、模擬患者25名、運営スタッフ136名（学生スタッフ50名）であった。午前10時に午前の部の試験を開始し、午後5時20分に午後の部の試験が終了した。本試験は、トラブルなく進行し、終了した。モニター員からも、スムーズな進行であり、問題はなかったとの評価をいただいた。

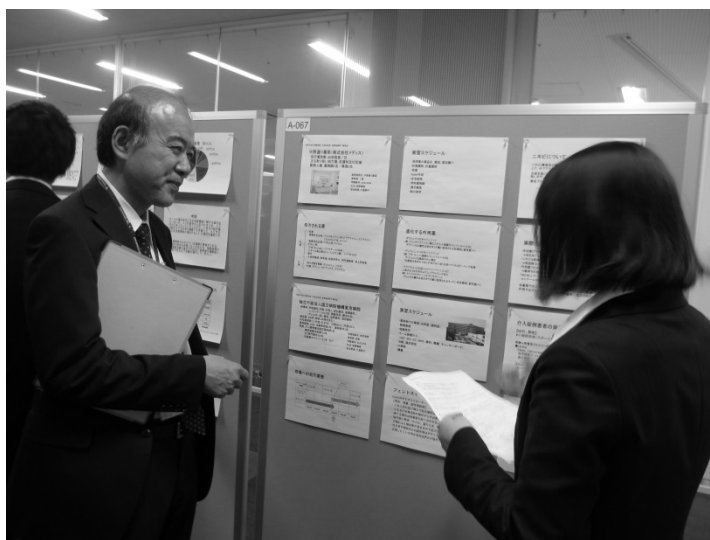
OSCE 再試験は、2019年2月23日（土）に、受験生1名で1課題を実施した。試験前に評価者講習会を実施し、午後2時から試験を開始し、トラブルなく終了した。評価者は、学内1名、学外1名で行った。モニター員からも、問題はなかったとの評価をいただいた。

合格基準は、細目評価70%以上、概略評価5以上とし、合格者は221名であった。

3) 実務実習終了報告会

本学では毎年、実務実習終了後に病院および薬局での実習で学修した内容を学生自身がポスターにまとめ、実習施設の指導薬剤師の先生方を招き、「実務実習終了報告会」を開催している。報告会では、学生のポスター発表に対して、担当教員と担当教員以外の2名が概略評価を行って、実務実習の振り返りを行っている。

本年度は2018年4月28日(土)に「実務実習終了報告会」を開催し、2017年度実務実習(実習生223名、薬局205施設、病院111施設)を終了した6年次生が発表を行った。学外からは実習で指導していただいた54名の指導薬剤師等(病院薬剤師の先生25施設、31名、薬局薬剤師の先生21施設、23名)が参加した。また、「実務実習終了報告会」終了後、引き続いて「2018年度実務実習全体説明会」が開催された。



4) 卒業研究発表会

薬学部の卒業研究では、教員の研究テーマに関連したテーマについて研究する「個別研究」と、疾患など医療に関するテーマについて調査研究を行う「一般研究」のいずれかを行うことになっている。

6年生の卒業研究発表会は、2018年7月28日（土）の午前、午後の2部に分かれてポスター発表会として実施した。発表会場として4階SGD室、403教室、404教室を使用し、午前に個別研究学生128名、午後に一般研究学生95名が発表および質疑応答（発表とあわせて20分）を行った。卒業研究発表会演題一覧は、下記の表に示した。各学生につき主査1名（指導教員）と副査1名（薬学部教員）が評価者となり、ポスター発表と質疑応答に対する評価をルーブリックに従って実施し、結果をmanabaにて収集した。また、卒業論文の評価についても同主査・副査がルーブリックに従って実施した。学生同士の発表・質疑応答も積極的に行われた。会場の設営および後片付け等の運営は、発表学生の協力のもと、卒業研究委員会が中心となって行った。

個別研究

演題番号	発表演題名	ユニット名
S-01	審査報告書の臨床的位置付けの記載の解析	薬事・情報学
S-02	大規模健診データベースを用いた糖尿病薬物治療の実態調査-予備検討	医療経済学
S-03	大規模健診データベースを用いた乳がん薬物治療の実態調査-予備検討	医療経済学
S-04	抗精神病薬などの医薬品有効成分の塩素処理生成物のリスク評価	リスク評価学
S-05	医薬品有効成分の塩素処理生成物の毒性評価	リスク評価学
S-06	神経系細胞を用いた医薬品有効成分の塩素処理生成物の安全性評価	リスク評価学
S-07	ドーピング防止に関する競技団体による情報提供及び薬剤師の役割	リスク評価学
S-08	口腔粘膜炎の疼痛緩和を目的としたインドメタシンスプレー全身移行性に関する検討	医薬品安全性評価学
S-09	院内製剤の臨床使用に関する情報の実態調査	医薬品安全性評価学
S-10	レセプトデータを利用したがん患者におけるベンゾジアゼピン系製剤とオピオイド製剤の併用実態調査	医薬品安全性評価学
S-11	医薬品の外観類似データベースの構築と有用性の評価	医薬品安全性評価学
S-12	微量採血によるガンシクロビル血中濃度測定法の確立	医薬品安全性評価学
S-13	ガンシクロビル尿中濃度測定法の確立	医薬品安全性評価学
S-14	トリプルリジン/チピラシル配合錠の血中・尿中濃度測定法の確立	医薬品安全性評価学
S-15	有害事象データベースを利用したオピオイド製剤の呼吸抑制関連有害事象の実態調査	医薬品安全性評価学
S-16	JADERを利用したベンゾジアゼピン系薬剤有害事象の発症実態調査	医薬品安全性評価学
S-17	セクシュアルマイノリティーへの配慮～薬剤師に求められる対応～	医療倫理学

S-18	薬学部1年生における動物実験についての意識調査	医療倫理学
S-19	医薬品の副作用に関係する裁判事例に基づく薬剤師の服薬指導業務の社会薬学的考察	薬局機能評価学
S-20	裁判事例に基づく薬剤師業務の社会薬学的考察：過量投与に関わる裁判事例からの考察	薬局機能評価学
S-21	裁判事例に基づく薬剤師業務の社会薬学的考察：医療者の不作為に関わる裁判事例からの考察	薬局機能評価学
S-22	腎透析患者の主観的 QOL 調査	病院薬学
S-23	腎透析患者の意思決定と後悔について	病院薬学
S-24	添加剤がインドメタシンカプセルの溶出率に与える影響 ～ケイ酸アルミニウム, 酸化チタン, ヒドロキシプロピルスターチの影響～	病院薬学
S-25	添加剤のインドメタシンカプセルの溶出率への影響 ～バレイショデンプンおよび結晶セルロース～	病院薬学
S-26	注射薬配合変化と薬剤師によるリスクマネジメント	地域健康管理学
S-27	糖尿病用薬における薬物間相互作用による副作用報告と添付文書の記載状況	地域健康管理学
S-28	高血圧治療薬における薬物間相互作用による副作用報告と添付文書の記載状況	地域健康管理学
S-29	長期投与可能なシロップ剤調剤の問題点 ～バルプロ酸ナトリウムシロップを例に～	地域健康管理学
S-30	抗がん剤に関する医療事故の事例調査と防止策の検討 1	地域健康管理学
S-31	抗がん剤に関する医療事故の事例調査と防止策の検討 2	地域健康管理学
S-32	在宅医療における高齢者への対応に関する問題点と改善策 ～高齢者のフレイルの問題と対応策～	地域健康管理学
S-33	これからの薬剤師に求められる死の受け止め方	薬学基礎教育 (生物系)
S-34	医療過誤の原因と対策	薬学基礎教育 (生物系)
S-35	CYP と基質薬剤に関する有機化学的考察	薬学基礎教育 (化学系)
S-36	カルムスチン脳内留置用剤の製剤設計に関する有機化学的考察	薬学基礎教育 (化学系)
S-37	統合失調症治療の現状と治療薬のこれから	薬学基礎教育 (化学系)
S-38	検出限界を求めるための差分法の評価 - II	薬学基礎教育 (物理系)
S-39	差分法のアルゴリズムの検証	薬学基礎教育 (物理系)
S-40	自己相関関数を用いたノイズ解析	薬学基礎教育 (物理系)
S-41	更年期障害の精神症状における西洋薬と漢方薬の比較研究	医療薬学系教育
S-42	子宮内膜症合併不妊に対する西洋薬と漢方薬治療の比較	医療薬学系教育
S-43	糖尿病網膜症に対する西洋薬と漢方薬の比較研究	医療薬学系教育
S-44	種々の情報伝達系阻害剤による悪性中皮腫の細胞増殖抑制効果	医療薬学系教育
S-45	情報伝達阻害剤のゲムシタピン感受性の異なる膵臓がん細胞への増殖抑制	医療薬学系教育
M-01	アミノペプチダーゼ B 変異体の酵素活性および基質特異性の解析	細胞生化学
M-02	アンギオテンシン III を用いたアミノペプチダーゼ B の基質認識機構の解析	細胞生化学

M-03	アミノペプチダーゼ B 変異体タンパク質の精製	細胞生化学
M-04	アミノペプチダーゼ B 変異体発現系の作製	細胞生化学
M-05	ERAP2 転写制御に関わる転写因子結合領域の欠損細胞株の樹立	細胞生化学
M-06	ERAP1/2 の転写制御に関する研究	細胞生化学
M-07	ERAP1 に関する選択的スプライシング制御機構の解析	細胞生化学
M-08	LARP1 の RNA 結合特異性に関する解析	細胞生化学
M-09	アミノ酸飢餓状態における LARP1 の機能解析	細胞生化学
M-10	小胞体アミノペプチダーゼ遺伝子欠損に伴う視索上核、視交叉上核のセロトニン合成神経異常	細胞生化学
M-11	バソプレシン、オキシトシンとその分解酵素 P-LAP の脳内局在	細胞生化学
M-12	小胞体アミノペプチダーゼ遺伝子欠損に伴う縫線核、室傍核のセロトニン合成神経異常	細胞生化学
M-13	ヒト唾液由来エクソソームの表面に存在する分子に関する研究	膜機能
M-14	ヒト唾液由来エクソソームによるマクロファージの活性化機構に関する研究	膜機能
M-15	ヒト唾液由来エクソソームの表面分子によるマクロファージ活性化機構に関する研究	膜機能
M-16	ヒト唾液に存在する細胞外分泌小胞に特有の分子の同定に関する研究	膜機能
M-17	ヒト唾液由来エクソソームの界面活性剤に対する安定性に関する研究	膜機能
M-18	ヒト唾液由来エクソソームの消化管内条件における安定性に関する研究	膜機能
M-19	Kendrin ノックアウトによる細胞増殖への影響の解析	分子細胞制御
M-20	Kendrin ノックアウト細胞株の樹立と中心体機能への影響の解析	分子細胞制御
M-21	一次繊毛形成過程における CG-NAP の局在変化と機能領域の解析	分子細胞制御
M-22	一次繊毛形成に関わる細胞内輸送系における CG-NAP の機能解析	分子細胞制御
M-23	CG-NAP とその結合タンパク質 LC8 の微小管形成における機能解析	分子細胞制御
M-24	チャバネアオカメムシ主要卵殻タンパク質の抽出法の確立及び生理活性探索について	遺伝子機能解析
M-25	チャバネアオカメムシ2 齢幼虫と成虫の盲嚢部における共生細菌の形態の違い	遺伝子機能解析
M-26	チャバネアオカメムシ幼齢を用いた共生細菌の培養検討	遺伝子機能解析
M-27	ユニバーサルがん治療ワクチンの開発 BCG 感作キラーT 細胞の作製	抗体 DDS
M-28	ユニバーサルがん治療ワクチンの開発 がん特異的 BCG 抗原発現組換えアデノウイルスの作製	抗体 DDS
M-29	一本鎖抗体を用いた抗生物質補助薬の評価	抗体 DDS
M-30	一本鎖抗体を用いた抗生物質補助薬の作製	抗体 DDS
M-31	自家発光組換えビフィズス菌の作製と経時的変化の評価	抗体 DDS
M-32	TR2 アゴニスト抗体の各種中皮腫細胞株における感受性評価	抗体 DDS
M-33	組換えビフィズス菌の抗腫瘍分子の更なる発現量向上を目指した研究	抗体 DDS
M-34	マウスにおける金ナノ粒子単独投与の安全性評価	抗体 DDS
M-35	金ナノ粒子は薬物相互作用により急性腎傷害を誘導する	抗体 DDS
M-36	金ナノ粒子の HepG2, LL2 に対する細胞毒性の検討	抗体 DDS

M-37	マウス TRAIL と抗 TRAIL 受容体抗体の併用による細胞死誘導効果	抗体 DDS
M-38	ヒト大腸がん細胞に対する TRAIL と抗 TRAIL 受容体アゴニスト抗体の併用による細胞死誘導効果	抗体 DDS
M-39	TNF- α 発現・分泌組換えビフィズス菌のマウス悪性黒色腫モデルを用いたがん免疫療法への応用検討	抗体 DDS
M-40	マウス黒色腫における超音波照射又は血管新生抑制薬によるビフィズス菌生着数上昇効果の比較	抗体 DDS
M-41	マウス悪性黒色腫 B16F10 細胞に対する 血管新生阻害薬を併用した 抗腫瘍タンパク質発現ビフィズス菌の抗腫瘍効果の検討	抗体 DDS
M-42	「超音波+ソナザイド」処置による腫瘍組織内部への組換えビフィズス菌集積性の検討	抗体 DDS
M-43	ヒトおよびマウスメラノーマ担癌モデルマウスに おける抗腫瘍タンパク質分泌組換えビフィズス菌の抗腫瘍効果	抗体 DDS
M-44	抗 STAT3 抗体分泌ビフィズス菌 (clone81) と 低分子化合物 Napabucasin (BBI608) の 抗腫瘍効果の比較検討	抗体 DDS
M-45	ビフィズス菌への T7 RNA ポリメラーゼ発現系の導入	抗体 DDS
M-46	ビフィズス菌における T7 RNA ポリメラーゼ系による組換えタンパク質発現	抗体 DDS
M-47	アミドプロトン交換による α -シヌクレインの安定化構造解析	タンパク質科学
M-48	α -シヌクレインの温度変化による残存構造への影響	タンパク質科学
M-49	α -シヌクレインの化学シフトによる構造解析	タンパク質科学
M-50	2 型糖尿病マウスにおけるジクロフェナク肝障害感受性の評価	薬物動態学
M-51	2 型糖尿病時のアセトアミノフェン肝障害感受性変動因子に関する研究	薬物動態学
M-52	ジクロフェナク誘発性肝障害モデル構築に向けた基礎検討	薬物動態学
M-53	免疫寛容破綻から見た薬物性肝障害重篤化機構に関する研究	薬物動態学
M-54	非アルコール性脂肪性肝炎モデル細胞におけるヘム合成経路への影響の検討	薬物動態学
M-55	非アルコール性脂肪性肝炎モデル細胞の作製と脂質および鉄毒性の検討	薬物動態学
M-56	ERAP1 と化合物との特徴的相互作用に関する計算機シミュレーション研究	医薬解析学
M-57	「ERAP-1 に特異的な結合をする化合物の探索	医薬解析学
M-58	長沢道寿『増補能毒』の研究 - 曲直瀬流能毒書の系譜における位置付け -	医薬解析学
M-59	近世ヨーロッパの都市薬局方における内服固形剤の添加剤について	医薬解析学
M-60	伝統医学における瘡の虫の病理観と処方薬の形成	医薬解析学
M-61	加熱融解後再固化したジクロフェナクナトリウム坐剤の主成分均一性について	物理薬剤学
M-62	ペプチドミルクに適した乳化方法の検討-D 相乳化法-	物理薬剤学
M-63	近赤外分光法を応用した貼付剤における水分量の評価	物理薬剤学
M-64	クロバタリールプロピオン酸エステルクリームとヘパリン類似物質含有保湿剤の混合安定性評価	物理薬剤学
M-65	ペプチドミルクに適した乳化剤の検討-乳化剤濃度と超音波の影響-	物理薬剤学
M-66	ペプチドミルクに適した乳化剤の検討-濃縮の影響-	物理薬剤学
M-67	ペプチドミルクに適した乳化剤の検討-HLB と脂肪酸組成の影響-	物理薬剤学
M-68	ヘパタリオン吉草酸エステルクリーム剤の製剤特性に関する研究	物理薬剤学
M-69	膵臓 β 細胞における TRPM2 の関与による糖尿病の発症機序	薬理学

M-70	二型糖尿病の発症および増悪への TRPM2 の関与	薬理学
M-71	Duloxetine による TRPM2 チャネル阻害作用を介した脳虚血後再灌流障害抑制作用	薬理学
M-72	Duloxetine は脳虚血後の投与において TRPM2 チャネル阻害作用を介し再灌流障害を抑制する	薬理学
M-73	舌下免疫療法実施時における減感作状態の EXiLE 法を用いた評価	薬物治療学
M-74	シダトレン®スギ花粉舌下液使用時における減感作状態の評価	薬物治療学
M-75	FOXP3 スプライシングバリエントの機能解析	薬物治療学
M-76	社会敗北ストレスが不安様行動に与える影響	薬物治療学
M-77	社会敗北マウスの不安様行動の検出	薬物治療学
M-78	睡眠と高血圧治療薬の関連性	生理・病態学
M-79	γ-グルタミルトランスフェラーゼと高血圧治療薬の関連性	生理・病態学
M-80	肥満と高血圧治療薬の関連性	生理・病態学
M-81	ニオブ導入チタン基材料の作製とその生体適合性評価	薬品分析学
M-82	繊維製品の塩酸抽出判別法によるホルムアルデヒド樹脂加工の判別	薬品分析学
M-83	高速液体クロマトグラフィーによる石けん中の芳香族塩素系殺菌剤の分析	薬品分析学

一般研究

演題番号	発表演題名	部門名
G-01	高額医薬品（オプジーボなど）の薬価に関する評価	社会薬学教育センター
G-02	特定保健用食品「ヘルシア」の臨床的有効性と安全性に関する評価	社会薬学教育センター
G-03	ジクロフェナクの影響	社会薬学教育センター
G-04	統合失調症の服薬管理について	社会薬学教育センター
G-05	我が国の臨床研究をめぐる社会的背景と UMIN 臨床試験登録システム登録状況との関連性についての研究	社会薬学教育センター
G-06	心房細動患者におけるワルファリンの処方実態及び出欠の有害事象発症に及ぼす影響因子の探索	社会薬学教育センター
G-07	高齢者の精神科領域におけるポリファーマシーの問題と薬剤師の役割	社会薬学教育センター
G-08	健康サポート薬局でのスーパーフードの未病予防の活用	薬学臨床教育研究センター
G-09	健康サポート薬局におけるスーパーフードアドバイススーパーフードとは何か？	薬学臨床教育研究センター
G-10	OTC 風邪薬の適切な選択のための方法提案	薬学臨床教育研究センター
G-11	保険調剤薬局における PTP シートの端数調剤の実態調査	薬学臨床教育研究センター
G-12	病院における PTP シート端数調剤の実態とその有用性の検討	薬学臨床教育研究センター
G-13	慢性便秘における OTC 薬の選択についての研究	薬学臨床教育研究センター
G-14	薬局におけるお薬手帳の関わる疑義照会事例の分析	薬学臨床教育研究センター
G-15	病院薬剤師の関係する診療報酬について －診療報酬に反映されない病院薬剤師業務－	薬学臨床教育研究センター

G-16	薬剤業務支援システムと病院薬剤師の将来について	薬学臨床教育研究センター
G-17	病院薬剤師業務と薬剤業務支援システムについて －システム導入のメリット－	薬学臨床教育研究センター
G-18	病院薬剤師の関係する診療報酬について －病棟薬剤師業務の診療報酬－	薬学臨床教育研究センター
G-19	後発医薬品について	薬学臨床教育研究センター
G-20	専門薬剤師の職能と必要性	薬学臨床教育研究センター
G-21	専門薬剤師について(薬剤師の活躍の場)	薬学臨床教育研究センター
G-22	薬剤師の専門性	薬学臨床教育研究センター
G-23	血管外漏出に起因した医療事故と薬剤師によるリスクマネジメント	薬学臨床教育研究センター
G-24	医療薬学的検証に基づいたシロップ剤調剤行程の標準化 ～ムコソルバンシロップの先発品、後発品の付着残存率の比較～	薬学臨床教育研究センター
G-25	在宅医療における高齢者への対応に関する問題点と改善策 2 －認知症患者への対応の問題－	薬学臨床教育研究センター
G-26	アファチニブの化学構造とその性質	薬学教育研究センター
G-27	抗 EGFR 抗体薬パニツムマブについて および類薬であるセツキシマブ との比較検討	薬学教育研究センター
G-28	2 型糖尿病治療薬カナグリフロジンと同種同効薬との比較	薬学教育研究センター
G-29	胆汁排泄型 DPP-4 阻害薬リナグリプチンの評価	薬学教育研究センター
G-30	うつ病治療の現状とレクサプロの有用性について	薬学教育研究センター
G-31	ジクロフェナクナトリウムとセレコキシブの有効性に関する調査研究	薬学教育研究センター
G-32	アログリプチン安息香酸塩の有用性に関する調査研究	薬学教育研究センター
G-33	アリスキレンフマル酸塩の有用性に関する調査研究	薬学教育研究センター
G-34	シタグリプチンの有効性に関する調査研究	薬学教育研究センター
G-35	2 型糖尿病治療薬オマリグリプチンの QOL 向上性について	薬学教育研究センター
G-36	ストレプトゾシンの糖尿病誘発機序と抗腫瘍活性との関連性について	薬学教育研究センター
G-37	分子標的薬アキシチニブと同効薬(チロシンキナーゼ阻害剤)との比較	薬学教育研究センター
G-38	インスリン分泌促進薬レパグリニドの有用性について	薬学教育研究センター
G-39	抗てんかん薬ラモトリギン不適切使用の現状と対策について	薬学教育研究センター
G-40	アコチアミド塩酸塩に関する研究	薬学教育研究センター
G-41	イルベサルタンの腎保護作用に関する研究	薬学教育研究センター
G-42	肺高血圧症の薬物治療に関する研究	薬学教育研究センター
G-43	クリゾチニブと同効薬との非小細胞肺癌に対する作用比較	薬学教育研究センター
G-44	成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)に対するモガムリズマブの有効性	薬学教育研究センター
G-45	リラグルチド - 肥満症治療におけるリラグルチドの有効性 -	薬学教育研究センター
G-46	閉経後乳がんホルモン療法における注意すべき副作用 －レトロゾールと他の腫瘍薬との比較－	薬学教育研究センター
G-47	Entresto は医療費削減に寄与できるか?	薬学教育研究センター
G-48	糖尿病治療におけるミグリトールの有用性	薬学教育研究センター
G-49	パーキンソン病におけるロピニロール塩酸塩の有用性	薬学教育研究センター

G-50	糖尿病-インクレチン関連薬の利点・注目される理由-	細胞機能教育部門
G-51	肺がんにおける薬物治療に関する研究	細胞機能教育部門
G-52	過敏症腸症候群に対する療法についての研究	細胞機能教育部門
G-53	SMA の核酸医薬による治療	細胞機能教育部門
G-54	敗血症治療に関する調査研究	細胞機能教育部門
G-55	不安障害治療に関する調査研究	細胞機能教育部門
G-56	肥満症治療薬と腸内細菌叢を介した肥満症治療の可能性	細胞機能教育部門
G-57	過敏性腸症候群と脳腸相関に着目した新しい治療法について	細胞機能教育部門
G-58	高カカオチョコレート の 血 圧 低 下 作 用 に つ い て	細胞機能教育部門
G-59	核酸の複製に作用する抗インフルエンザ薬の比較と今後の治療薬に関する調査研究	細胞機能教育部門
G-60	気管支喘息の薬物治療に関する調査研究	細胞機能教育部門
G-61	関節リウマチの発症における女性ホルモンの作用について	細胞機能教育部門
G-62	エフラロクトグ アルファについて 育薬の観点から今後の血友病治療についての考察	生体防御教育研究部門
G-63	モガムリズマブの固形がんに対する有効性	生体防御教育研究部門
G-64	関節リウマチ治療薬ゴリムマブ と類似医薬品の比較	生体防御教育研究部門
G-65	トシリズマブと関節リウマチにおける作用機序の異なるの同効薬との比較	生体防御教育研究部門
G-66	慢性特発性血小板減少性紫斑病に対するロミプレートの有用性	生体防御教育研究部門
G-67	セツキシマブとパニツムマブの比較及び研究	生体防御教育研究部門
G-68	GLP-1 受容体作動薬デュラグルチドによる糖尿病治療と心疾患リスクへの影響	生体防御教育研究部門
G-69	抗 HER2 抗体と微小管重合阻害剤複合体の化学構造と作用機序	生体防御教育研究部門
G-70	関節リウマチ薬シムジアとメトトレキサートの比較検討	医薬品機能教育研究部門
G-71	カドサイラ（トラスツズマブ エムタンシン注）とハーセプチンの比較検討	医薬品機能教育研究部門
G-72	エクア錠とその他のインスリン分泌促進系薬の特徴の比較	医薬品機能教育研究部門
G-73	ヒト型抗体ゴリムマブの有用性に関する調査研究	医薬品機能教育研究部門
G-74	アリロクマブに関する調査研究	医薬品機能教育研究部門
G-75	選択的プロテアソーム阻害剤カルフィルゾミブについての調査研究	医薬品機能教育研究部門
G-76	ビデュリオン ～同種・同効薬の比較～	医薬品機能教育研究部門
G-77	ステント留置後の血栓予防におけるエフィエント錠の有用性について	医薬品機能教育研究部門
G-78	多発性硬化症治療薬 グラチラマー酢酸塩の有効性および安全性について	医薬品機能教育研究部門
G-79	アーゼラ（オフアツムマブ）の有効性	医薬品機能教育研究部門
G-80	多発性硬化症とタイサブリに関する調査研究	医薬品機能教育研究部門
G-81	抗悪性腫瘍薬 パージェタ点滴静注（パルツズマブ）の乳がんに対する効果とその他治療薬の比較検討	医薬品機能教育研究部門
G-82	新規機序リウマチ治療薬アクテムラ点滴静注（トシリズマブ）に関する調査研究	医薬品機能教育研究部門
G-83	デュアルエンドセリン受容体遮断薬マシテンタンと同種薬の比較	医薬品機能教育研究部門

G-84	急性骨髄性白血病治療薬ゲムツズマブオゾガマイシンの有効性について	医薬品機能教育研究部門
G-85	リンパ脈管筋腫症に対するラパリムス錠の有用性	医薬品機能教育研究部門
G-86	2型糖尿病治療における GLP-1 受容体アゴニスト（エキセナチド）の有用性について	医薬品機能教育研究部門
G-87	疼痛治療剤リリカプセルの有用性について	医薬品機能教育研究部門
G-88	GLP-1 受容体作動薬リキシセナチドについて	医薬品機能教育研究部門
G-89	ポリノスタットの基本的事項とその考察	医薬品機能教育研究部門
G-90	抗凝固薬アピキサバンの有効性と安全性に関する調査研究	医薬品機能教育研究部門
G-91	抗悪性腫瘍薬セツキシマブについて	医薬品機能教育研究部門
G-92	抗悪性腫瘍薬ニロチニブ塩酸塩水和物について	医薬品機能教育研究部門
G-93	認知症と血圧の関係	医薬品機能教育研究部門
G-94	高血圧と遺伝の関係	医薬品機能教育研究部門
G-95	ヒドロキシクロロキンとクロロキンの比較	医薬品機能教育研究部門

5) 薬剤師国家試験

第 104 回薬剤師国家試験は 2019 年 2 月 23 日 (土) および 24 日 (日) に実施され、合格者の発表は、2019 年 3 月 25 日 (月) に行われた。第 104 回からは禁忌肢の導入に加え、合格基準が平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定した得点以上であることに変更された。第 104 回薬剤師国家試験の合格基準は、①全問題の得点が 450 点以上 (1 問 2 点、690 点満点)、②必須問題について、全問題への配点の 70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の 30%以上 ③禁忌肢問題選択数は 2 問以下のすべての基準を満たした者が合格であった。本学の結果は次の表に示す。

104 回薬剤師国家試験結果

	総数	6 年制卒業生		その他
		新卒	既卒	
出願者数 (名)	423 (15,796)	167 (10,534)	252 (4,841)	4 (421)
受験者数 (名)	408 (14,376)	167 (9,508)	238 (4,527)	3 (341)
合格者数 (名)	210 (10,194)	125 (8,129)	85 (1,950)	0 (115)
合格率 (%)	51.47 (70.91)	74.85 (85.50)	35.71 (43.07)	0 (33.72)

() は、第 104 回薬剤師国家試験全体の結果を表す。

6 年制・新卒および既卒の合格率は 74.85%と 35.71%で、全国平均よりそれぞれ 10.65 ポイントおよび 7.36 ポイント低い結果となった。

一方、本学の直近 3 ヶ年間の 6 年制・新卒の出願者数、合格者数 (下表) では、第 104 回は、第 103 回と比べて出願者数 58 名、合格者数 35 名が増加し、第 102 回と比べて出願者数 90 名、合格者数 73 名が増加し改善が図られてきている。次年度以降に向け、さらなる卒業率の向上と国家試験合格率の改善に向け薬学部全体で努力する必要がある。

	薬剤師国家試験		
	104 回	103 回	102 回
出願者数 (名)	167	109	77
受験者数 (名)	167	109	77
合格者数 (名)	125	90	52
合格率 (%)	74.85	82.57	68.53

6) 薬学業界セミナー

薬学部学生の進路支援を行う組織として、キャリア支援と就職支援に関する対策や分析を行うキャリアセンター、各学科の教員をメンバーとするキャリア委員会、直接支援に関わる就職支援室、薬学部就職委員会がある。

薬学部就職委員会と就職支援室とは連携して、5年次夏期に「学内就職ガイダンス」を開催し、就職関連日程、病院・薬局・製薬関連企業・官公庁に関するキャリアの特徴と就職活動の要点などに関する説明、および卒業後のキャリアプラン作成の指導、就活のABCを要約した「帝京平成大学就職ガイドブック」の配付などを行っている。また、5年次冬期に、各業界各社の特徴を学生に説明することで学生のキャリアプラン作成を促すことを目的とする「薬学業界セミナー」を開催している。薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）対応の薬学実務実習を2019年度から実施するために2018年度の実習日程が変更されたため、毎年8月に開催していた「学内就職ガイダンス」を2018年7月23日（月）に、毎年12月に開催していた「薬学業界セミナー」を2019年2月6日（水）、7日（木）の2日間に実施した。

本年度の「薬学業界セミナー」は、帝京大学の3附属病院および国立病院機構関東甲信越グループ等の病院、薬局、ドラッグストア関連企業、製薬関連企業、東京都薬剤師会など102の企業・団体が参加した。実施スケジュール概略を下表に示した。会場であるアリーナに36のブースを設置し、3セッションに分けて行った。ガイダンスを実施した後、各セッションにて参加企業などから業界の現状とその企業などの業務内容と業界における位置に関する説明が行われた。

内容	2月6日(水)	
ガイダンス	9:50～10:05	セミナーの趣旨説明
	10:05～11:00	就活のためのマナー講習
	11:00～11:30	セミナー参加方法の説明
	11:30～13:45	就職活動用写真撮影 参加企業研究 昼食
セッション A	13:45～16:00	企業ブース訪問 説明を受け、質疑応答
内容	2月7日(木)	
セッション B	9:15～11:30	企業ブース訪問 説明を受け、質疑応答
セッション C	12:45～15:00	企業ブース訪問 説明を受け、質疑応答

7) オレンジバルーンフェスタ (OBF)

2013年から、中野区医師会が中心となり、地域がん医療を支える医療者が地域や職種の壁を越えて一堂に会し、「オレンジバルーンフェスタ in 中野」を11月の学園祭(四季祭)にあわせて開催している。本学からは教員と学生が参加し、がん医療についての学びの場としている。2018年は、「第7回オレンジバルーンフェスタ in 中野 2018」を開催した。

① 運営スタッフ(帝京平成大学教員)

薬学科：濃沼 政美、島崎 学、井手口 直子、安西 偕二郎

看護学科：益田 育子、西 留美子

現代ライフ学部：小林 統、照屋 健作

② 開催日 2018年11月10日(土)、11日(日)

③ 活動概要

I. 第7回OBF2018 キャッチフレーズ

「知らないと怖い「がん」のこと。未来を生きるために、考え学ぶ2日間—2人に1人は“がん”になると言われる時代。知ることを先延ばしせず『今』できることに興味を持ってみませんか?“がん”について、大人も子供も興味が持てるような2日間です。さあ、行動を起こしてみませんか—」

II. テーマ：以下に示す5つのテーマ(i~v)で実施した。

i) がん体験者の話を聞こう・子供たちにも伝えよう(特別セミナーとトークイベント)

「我が家に“がん”がやって来た」と題し、若くして乳がんを発症したサバイバー、三瀧みおね氏が、がんの発覚、宣告、手術、抗がん剤治療までの過程から、家族、学校、恋愛、将来のことについて講演を行った。講演後、三瀧氏、医師、ホームホスピスを主宰する看護師と、区民・学生との間でフリートークが行われた。

若くして“がん”を患った三瀧氏の講演は、“がん”を遠い先の事として、関心も低くなりがちな若者の心に届き、患者に寄り添う大切さは勿論の事、生きる意味を考える大切な機会となり、350名収容の会場は立ち見がでる程であった。

ii) “がん”について語り合おう(シンポジウムとブラック・ジャックセミナーの体験)

中野区の歯科医師・薬剤師と、がん専門看護師が“がん”の基礎知識、外科治療の実際、検診に関するシンポジウム形式の講演の後、医療機器メーカー提供の内視鏡手術トレーニング体験用機材で、区民や学生が模擬手術を体験した。

iii) 中野の地域医療体験(帝京平成大学の学生によるポスターセッション)

看護学生は薬局、薬学生は訪問看護師と在宅療養者を訪問し、療養者の日常や他職種の仕事を体験し、その内容についてポスター発表をおこなった。フロアからの質問には、同行医師からも丁寧な説明があり、更に在宅で看取りをした家族から感謝の気持ちが述べられる等、参加者が地域医療の実際の姿を肌で感じられる発表の場であった。OBFは学生、若者の“がん教育”を重視しているが、医療・介護の現場に足を運んで目の前の現実に触れる事により、学生にとって座学では得られない自覚を育む機会になった。

iv) “がん”になってもいつも通りの生活をしよう（体験コーナー）

会場に設けられた体験コーナーでは、協賛企業によるウィッグ体験、口腔ケア体験、栄養補助食品の試食に加え、“がん治療”にかかるお金のこと、検査データの見方等、「すぐに分かるミニセミナー」も随時開催された。加えて、レモネードスタンド（小児がんの支援募金活動）の子供達による募金活動や薬学部の分包機を利用して分包体験も行われた。

v) 中野の医療者と考える“がん”について（中野オリジナルコーナー）

オリジナル菓子のプレゼント、“がん”に関する様々なリーフレットの配布や、OBFに関するアンケートを行った。

④ 自己点検・評価

OBFは、“がん”と正しく向き合い、正しい基礎知識、がん検診の大切さについて知っていただくための啓発活動で、薬学部が中野に移転して以来継続して行ってきた。セミナー等では、通りいっぺんの知識偏重の講義に陥ることのないよう、様々な工夫が凝らされている。特に、第1回から変わることなく、がん患者さんの講演やセミナーにおいても、医療者と参加者との交流が重視され、また医療者の間で本音の意見が交わされるなど、区民や学生には、がん医療の現実や医療者の思いが十分に伝わる、またとない機会になっている。また、1年生は「フレッシュセミナー1B」の授業においてOBFを見聞し、がん医療の実態を学んでいる。

ポスターセッション等への学生の参加について、今年度は訪問診療、訪問歯科診療、訪問看護、薬局、地域包括支援センター、地域密着型デイサービス、自宅で看取りを行った家族のインタビューへ参加した。薬学生（16名）、看護学生（8名）、現代ライフ学生（4名）、計30名がポスター発表を行った。毎年、自主的参加の学生数が増してきており、地域に根差した医療教育が進展してきているものと考えられる。また、スタッフとして自主的に参加する医療・介護・教育などの関係者も年々増加し、忌憚のない意見を述べ合って活動している。

OBFは、中野区医師会を中心とする安定した組織によって運営されており、準備会を3日間行った。準備から実施までの過程を通じ、これまでも増して顔の見える多職種連携の意識が増大し、中野の地域医療を推進する原動力ともなっている。

OBFは、①区民へのがん・緩和ケアの啓発活動、②真に顔の見える多職種連携の構築、③学生・若者への「がん教育」について、大きな成果をあげている。このような成果を踏まえ、今後、より一層の発展につなげてゆく計画である。

8) 薬物乱用防止キャンペーン

2018年11月10日(土)、11日(日)に開催された学園祭(四季祭)において、「薬物乱用防止キャンペーン」を実施した。このキャンペーンは、2013年に中野キャンパス開設以来、本学の薬学科、看護学科、薬学研究部が、薬物乱用防止推進中野地区協議会、中野区保健所に協力して毎年実施している。中野地区協議会、中野保健所の方々とともに教員や学生が四季祭を訪れる人々に関係資料を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。また、中野地区協議会が薬物乱用防止推進のためのポスターと標語を中野区内の中学生から募集し、集まった作品(ポスター183点、標語224点)を本学教室に展示した。来場者は一般80名、教員15名、学生229名であった。

薬物乱用防止推進中野地区協議会による審査によって、応募作品から地区協議会長賞や本学学長賞などが選ばれ、四季祭直前の11月8日(木)に開催された第32回薬物乱用防止中野区民大会(会場：なかの芸能小劇場)において表彰された。大会には安西偕二郎薬学部長(副学長)が出席した。

第32回 薬物乱用防止 中野区民大会



ダメ。ゼッタイ。若く(若)麻薬・覚せい剤乱用防止センター

平成30年11月8日(木)
開演:15:00~17:00 (開場:14:30)
会場:なかの芸能小劇場

〈第1部〉 厚生労働省 麻薬対策部職員による 薬物乱用防止講演会	〈第2部〉 平成30年度中学生作品による 薬物乱用防止ポスター・標語の 受賞作品の発表と表彰式
---	--

明るい未来のために
薬物乱用はダメ。ゼッタイ。



☆応募いただいたポスター・標語の全作品を帝京平成大学四季祭(11/10・11 同大学中野キャンパス)にて展示します☆
お問い合わせの上、ぜひご来場ください!



なかの芸能小劇場
〒164-0003
東京都中野区中野4-48-7
※22321(03)484157

主催:東京都薬物乱用防止推進
中野地区協議会
共催:中野区
協力:帝京平成大学

9) 卒後教育

1. 「無菌調製技能習得研修会」

東京都の委託を受け、「2018年度地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業」の一環として、「無菌調製技能習得研修会」を、2019年3月3日（日）、10日（日）に本学無菌調剤実習室を使用して開催した。研修会の目的は、在宅医療に関する知識・技能を有する薬剤師の養成・確保、地域住民に対するかかりつけ薬剤師・薬局機能の普及、薬剤師・薬局の地域包括ケアシステムへの参加促進を図ることにある。対象者は、東京都薬剤師会会員を中心に注射薬の無菌調製の初心者とし、手洗い、手袋の脱着、アンプルカット、シリンジの取扱い、薬液の採取、混合調製など、無菌調製に係る初歩的な技能を習得する研修内容となっている。

受講者は61名で、本学教員10名、東京都薬剤師会委員4名が実地指導に当たった。また、研修会修了者には、安西学部長より修了証が授与された。

2. 「戸田中央医科グループ（TMG）薬剤師育成会研修会」

教育研究協定を結んでいる戸田中央医科グループ病院薬剤師および本学学生を対象に、2回のTMG薬剤師育成会研修会を帝京平成大学中野キャンパス（204号室）で開催した。

第35回 TMG 薬剤師育成会研修会 2019年1月19日（土）15：00～17：30

「アンケート調査を用いた研究を実施してみよう」 講師：本学教授 濃沼政美

第36回 TMG 薬剤師育成会研修会 2019年1月26日（土）15：00～17：30

「メディカルライティング」 講師：本学教授 荒川一郎

(8) その他の行事

1) 保護者会

毎年、薬学部では5月下旬に新入生保護者会を開催している。2018年度は5月26日(土)に約3時間の日程で実施した。保護者への案内は入学式の翌週に郵送し、事前の登録無しに参加していただいた。本年度は入学生のおよ半数の保護者約170名が参加した。

保護者会では、薬学部長が薬学部薬学科の教育の目的や方針を紹介し、6年制薬学教育に関して、学修成果基盤型の薬学教育が目標とする outcome、平成25年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの構成と本学部のカリキュラム構成との関連、各学年の主要テーマと注意点などについてカリキュラムツリーなども使用して説明し、保護者に理解と協力を求めた。次いで、1年生学年主任より担任を紹介した後、担任制度による指導体制、学習指導の具体的内容と方法について説明し、薬学部学生委員長がマルチ商法の勧誘への対策、SNS投稿に対する注意点、薬物乱用防止や飲酒の要点など大学生活を滞りなく進めるための事柄について説明した。その後、薬学部の調剤実習室、無菌調剤実習室、SGD講義室などの施設、および研究室の見学を行った。

2) 公開講座

1. 「区民講座」

区民講座は薬学部と中野区薬剤師会との地域医療連携協定に基づいて実施されており、区民に対する健康・福祉支援、啓発を目的としている。本講座は、本学が中野に移転した2013年度から毎年開催されており、本年度は、第6回として2018年11月24日（土）に中野区薬剤師会との共催、中野区後援で実施した。プログラムは第1部が島崎学講師による講演「救急箱のおくすりの使い方」、第2部が中野区薬剤師会による「お薬相談」で、薬を正しく使い、健やかな生活を送るために必要な知識を地域住民に提供している。

講座案内は中野区役所発行の広報誌、掲示板、なかのまちめぐり博覧会などを通じて、地域住民全体に本講座への参加を呼び掛けているが、毎年参加者が30～40名と少なく参加者の増員方法が課題となっている。

2. 「夏休み親子薬草教室」

夏休み親子薬草教室は、中野区内在住もしくは通学する小中学生と保護者を対象として中野区教育委員会後援のもとで実施されており、今年で5回目になる。本年度は、2018年8月25日（土）（午後1時～4時）に生物学実習室で実施した。参加した中野区の小中学生とその保護者の方は計45名（保護者は17名）、運営スタッフは12名（本学教員4名、学生スタッフ8名）であった。

プログラムは、安西薬学部長の挨拶、中野区で見られる薬用植物の解説、親子で薬草に親しんでもらうための体験学習（薬草標本作り、葉脈作り、しおり、ミニ灯籠、藍染、押し花アート）であった。薬草教室で使用した薬草は、主に相模原市にある本学の薬草園で採取したものをを使用した。また、保護者の方には薬草や漢方の煎じ液の試飲や効能の説明会を実施した。参加者には最後にアンケート用紙に薬草教室の感想などを書いてもらったが、それによればイベント内容が盛りだくさんということもあり小中学生のみならず保護者の方々にも好評であった。



3) FD/SD活動

1. 講演会

大学 FD 委員会主催の FD/SD 講演会「アセスメント・ポリシーに基づく学修成果の可視化」（本学准教授 山本佐江先生）が 2018 年 9 月 26 日に開催された。薬学部から 12 名が出席した。

大学 FD 委員会主催 FD/SD 講演会「シラバス作成について」が 2019 年 2 月 1 日（金）に開催された。4 名の学内講師によるシラバス作成上の注意点について講演があり、薬学部から矢ノ下教授が薬学部独自のシラバス作成法について話した。薬学部から 22 名が出席した。

2. 「公開研究授業合評会」

公開研究授業後の合評会が中野キャンパス全学部の教員の自主参加で毎年度 2 回（前後期 1 回ずつ）実施されている。2018 年度は、「アクティブラーニング」が大きなテーマとして取り上げられた。合評会参加者は各回 25 名前後であった。

I. 前期合評会

2018 年 7 月 27 日（金）と 30 日（月）に前期合評会が開催された。グループワークを行う際の注意点が討議され、課題を事前に提示すること、少人数で実施すること、リフレクションシートをうまく活用することなどが示された。

II. 後期合評会

2019 年 1 月 9 日（水）と 11 日（金）に後期合評会が開催された。トレーナースポーツ経営の 2 年生のセミナーにおける、「探究」を意識したセミナー授業が紹介された。どんなに些細な内容でも、自らテーマを考え、調べた内容で発表することを義務づけていること、最終発表時に、質問用紙の配付やエクセルのルーレットで質問者を指名するなどをして参加意識を高めている工夫がされていることが紹介された。

4) 防災訓練

中野キャンパスの校舎は、基礎免震構造（地震の揺れを吸収し建物の揺れを緩和する）により、大きな被害を受けにくくなっているが、災害時に備えて様々な取り組みも行っている。防災訓練はその1つで、2018年度は11月27日（木）に、大規模地震及び火災発生を想定した総合防災訓練を実施した。職員等で構成された自衛消防隊を中心に、教員・学生など総勢200名以上が訓練に参加し、初期消火・避難誘導・応急救護訓練を行った。訓練の主な内容を以下の表に示した。

中野キャンパス全学科が対象となっているが、2018年度は薬学部の必修科目の授業といずれの学年も重なったため、薬学部学生は参加できなかった。2019年度は予め時間割を元に、薬学部生の参加が可能な時間帯に実施するよう要望することとした。

15:20	地震発生
15:22	自衛消防組織員防災センター集合
15:25	火災報知器発報、館内放送
15:27	初期消火、避難誘導（学生、教員）、安全防護（防火扉確認）
15:30	学生・教員避難開始。1Fエントランス付近に避難
15:50	学生・教員避難完了。各教室単位で点呼をとり、避難者数を確認
16:10	訓練終了

5) 実務実習全体説明会

実務実習開始前に、実務実習施設の指導薬剤師の先生に対して、本学の実習への取り組み、実習施設との連携体制及び実習の評価方法などについて説明し、本学と実習施設との相互理解を図り、円滑に実習が行えるように努めている。

2018年度は、4月28日(土)に「実務実習全体説明会」を開催した。142施設、162名の指導薬剤師等(病院薬剤師の先生57施設、76名、薬局薬剤師の先生85施設、86名)が参加した。当日は「2017年度 実務実習終了報告会」も開催され、前年度の指導薬剤師の方が参加された。

【説明会次第】

① 平成30年度実務実習について

病院・薬局と本学との連携、改訂モデル・コアカリキュラムでの実務実習の先行導入と運用について、実務実習委員会委員長 清野敏一教授と実務実習委員会委員 渡辺達也准教授が説明した。

② 「実務実習進捗管理ツール」について

実務実習委員会委員 山本佳久准教授が日報などのWEBシステムについて説明を行った。

③ 質疑応答

4. 研究活動

(1) 研究発表

2018年度における、ユニット別の原著論文・総説等発表数および学会発表数は下記の表のとおりである。なお、各ユニットの研究活動および原著論文、総説、記事等に関する詳細は、研究紀要委員会が編集した「平成30年度 帝京平成大学薬学部 研究活動報告書」に記載されている。

2018年度 帝京平成大学・薬学部研究成果一覧

部門・センター	ユニット	欧文 雑誌*	和文 雑誌等*	国際 学会	国内 学会等
細胞機能教育研究 部門	細胞生化学	3	0	0	12
	膜機能	2	0	0	5
	分子細胞制御	1	0	0	1
	遺伝子機能解析	0	0	0	0
生体防御教育研究 部門	抗体 DDS	4	3	1	10
	タンパク質科学	0	0	0	2
医薬品機能教育研究 部門	薬物動態学	1	0	0	4
	医薬解析学	0	14	0	6
	物理薬剤学	3	1	0	11
	薬理学	1	0	1	0
	薬物治療学	0	0	1	4
	生理・病態学	2	6	1	2
	薬品分析学	1	0	1	1
社会薬学教育研究 センター	医薬有機化学	0	0	0	5
	薬事・情報学	2	2	1	2
	医療経済学	2	0	0	0
	リスク評価学	0	0	1	0
	医薬品安全性評価学	4	3	0	11
	医療倫理学	0	0	0	1
薬学臨床教育研究 センター	薬局機能評価学	0	0	0	0
	病院薬学	1	1	0	8
	地域薬局学	0	0	0	0
薬学教育研究 センター	地域健康管理学	1	1	0	6
	薬学基礎教育（生物系）	0	0	0	0
	薬学基礎教育（化学系）	0	0	0	0
	薬学基礎教育（物理系）	0	0	0	1
	医療薬学系教育	0	8	0	0

*原著論文、総説、記事等を合計した発表数

(2) 研究交流会

本学薬学部で行われている研究内容を相互理解し、研究活動を活性化する目的で、2013年から年3回程度、「研究交流会」を開催し、学内教員の研究紹介および外部研究者による講演会を行っている。2018年度は3回開催した（下記表）。

第1回 日時：2018年7月13日（金）18：00～19：30、 618 教室 講演：「薬剤師のミッション～インポッシブルからポッシブルへ～」 アッセンハイマー 慶子（セントラルアポテーケ：ロッテンブルク、ドイツ）
第2回 日時：2018年11月30日（金）17：00～19：00、 201 教室 研究紹介：「薬理活性化化合物の合成と新規反応の開発 -これまで、そしてこれから-」 小松 俊哉（帝京平成大学・薬学部） 研究紹介：「アルツハイマー病におけるグリア細胞の可能性について」 建部 卓也（帝京平成大学・薬学部）
第3回 日時：2019年3月1日（金）17：00～19：00、 301 教室 研究紹介：「臨床研究法施行およびRWD時代の臨床統計家の役割 -最近の取り組み事例を通じて-」 濃沼 政美（帝京平成大学・薬学部） 研究紹介：「肝細胞を用いた重層培養系の作製と評価」 大野 まき（帝京平成大学・薬学部）

参加人数は、第1回は59名、第2回は35名、第3回は40名であった。第1回は、ドイツの薬局事情に関する講演で関心が高く、学外や学部学生の参加者も多かった。

第2章 大学院薬学研究科

1. 教育活動

本学大学院薬学研究科では、薬学部6年制課程に続く博士課程（4年制）を設置している。

（1）研究科教員

安西 偕二郎	荒川 一郎	伊佐間 和郎	石坂 隆史	石田 功
井手口 直子	稲津 教久	濃沼 政美	小林 秀昭	斎藤 浩美
清水 俊一	清野 敏一	高橋 美樹子	辻本 雅文	土屋 静子
中村 均	西村 千秋	根来 孝治	水野 恵司	矢ノ下 良平
渡邊 伸一	池本 守	石井 竹夫	磯田 勝広	大西 敦
小川 裕子	後藤 芳邦	鈴木 達彦	平 郁子	平 裕一郎
西川 毅	濱田 和真	山本 佳久	渡邊 丈夫	山元 健太

（2）入学者数・修了者数・学位授与者数

- 1) 入学者 1名
- 2) 修了者 1名
- 3) 学位授与者数 2名（内1名は、論文博士）

（3）在籍者数

- 1年 1名
4年 1名

（4）学年歴

- 7月2日（月） 予備審査申請書 提出期限
7月4日（水） 予備審査委員選出
7月17日（火） 予備審査結果報告書 提出期限
8月31日（金） 予備審査発表会、論文提出可否判定、本審査委員選出
12月17日（月） 本審査申請書 提出期限
1月17日（木） 本審査発表会・最終試験
1月21日（月） 本審査結果報告書 提出期限
2月7日（木） 特別審査会
2月21日（木） 学位授与可否案判定
3月7日（木） 最終可否判定

(5) 学位授与論文題目等

1) 氏名：興石 徹

論文題目：国内有害事象自発報告データベースを用いた薬剤投与に伴う嚥下障害に関する解析

主査：荒川 一郎

副査：水野 恵司、渡邊 伸一

2) 氏名：石橋 正祥

論文題目：健康サポートおよび高度薬学管理において保険薬局薬剤師が担うべき役割に関する
研究

主査：濃沼 政美

副査：清野 敏一、井手口 直子

第3章 薬学部運営組織の活動

1. 担当会議

(1) 構成員

安西 偕二郎（薬学部長）、清水 俊一（教務担当）、石坂 隆史（学生担当）、
辻本 雅文（研究担当）、濃沼 政美（広報担当）、小池 勝也（薬剤師国家試験担当）、
中村 均（薬学臨床教育研究センター長）、西村 哲治（社会薬学教育研究センター長）、
羽野 芳生（薬学教育研究センター長）

(2) 会議の開催

【第1回担当会議】2018年4月10日(火)

[協議事項]

1. 2018年度、薬学部委員会の組織編成について
2. 新入生のアチーブメントテスト(生物、化学)の結果について
3. 薬学教育第三者評価本編作成について
4. 新入生の面接と、情報の集約と活用について
5. 国家試験担当関連事項
 - 1) 2017年度卒業判定と国家試験合格との相関性に関する検証について
 - 2) 2018年度国家試験対策の進捗状況について
6. 実務実習先行導入の現況について
7. 就学指導について
8. その他
 - 1) 薬学特設サイトの更新について
 - 2) 学修目標達成度調査の所管、実施時期、方法について

【第2回担当会議】2018年4月24日(火)

[協議事項]

1. 国家試験担当関連事項
 - 1) 2018年度総合試験の実施内容について
2. 薬学臨床教育研究センター関連事項
 - 1) 中野区薬剤師会との協議会の開催(2018年度の事業計画)について
3. 薬学教育検証委員会関連事項
 - 1) アチーブメントテストの検証とfollow upについて

4. 実務実習先行導入の学部内への周知徹底法について

【第3回担当会議】2018年5月8日(火)

[協議事項]

1. 国家試験担当関連事項
 - 1) 平成30年度 総合試験について
2. 薬学臨床教育研究センター関連事項
 - 1) 中野区薬剤師会との協議会の開催について
 - 2) 看護学科との連携関連事項
 - ①薬剤師・保健師連携コースの担当者とポートフォリオ作成について
 - ②看護学科との連携(まとめ)について
 - ア. 薬剤師・保健師連携コース(1-3年次の科目履修、3年次の地域診断演習)
 - イ. 連携コース学生のオレンジバルーンでの在宅診療同行と発表
 - ウ. 薬物乱用防止キャンペーンでの連携
 - エ. 4年次事前学習における合同講義での連携
 - オ. アドバンス III、IV での訪問看護ステーションとの連携(在宅医療同行)
3. 薬学教育評価関連事項
 - 1) 評価書本編の進捗状況と完成日程について
 - 2) 訪問調査への対応について
 - 3) 自己点検委員会の開催について
4. 研究担当関連事項
 - 1) 私学事業団、研究施設運営支援(先端・技術開発セでの研究運営費の半額補助)について
 - 2) 文部科学省、私立学校施設整備補助金(経常費特別補助)について
 - 3) ブランディング事業への応募について
5. 学生担当関連事項
 - 1) 学生情報の共有体制について
6. 5年次の問題点
 - 1) 実務実習先行導入と待機時期の演習について
 - 2) 卒業研究一般課題の在り方について

【第4回担当会議】2018年5月22日(火)

[協議事項]

1. 教務担当関連事項
 - 1) 各学年の学科目の履修・定期試験、実力試験、卒業研究・実務実習関連事項について

- 2) 1年生定期試験等に関するガイダンスについて
- 3) アド III、IVにおける在宅医療などの見学・体験実習について
－医師会、訪問看護ステーション、薬剤師会などとの連携に向けた準備状況について
- 4) 薬剤師・保健師連携コースのポートフォリオ作成について
2. 国家試験担当関連事項
 - 1) 第103回国家試験の検証について
3. 薬学教育検証委員会関連事項
 - 1) 新入生の学力対策について
4. 薬学教育第三者評価関連事項
 - 1) 訪問調査(10月16日-17日)に向けた準備について
 - 2) 閲覧資料の進捗状況について
5. 学生担当関連事項
 - 1) 保護者会の準備状況について
 - 2) 新入生の面接状況について
6. 研究担当関連事項
 - 1) ブランディング事業への応募状況について

【第5回担当会議】2018年6月12日(火)

[協議事項]

1. 国家試験担当関連事項
 - 1) 第3回学内模擬試験の結果と対策について
2. 教務担当関連事項
 - 1) 卒業延期生の修学状況について
 - 2) 1Q定期試験成績の状況について
 - 3) 連携コースのポートフォリオ作成の現況について
3. 薬学教育研究センター関連事項
 - 1) 初年次の学力対策について
4. 薬学教育第三者評価関連事項について
5. 薬学教育学会への投稿について

【第6回担当会議】2018年6月26日(火)

[協議事項]

1. 教務担当関連事項
 - 1) 1年生の学力対策について

- 2) 卒業延期生の修学状況について
- 3) 連携コースのポートフォリオ作成状況について
2. 薬学教育学会への投稿について
3. 薬学会関東支部大会の準備状況について

【第7回担当会議】 2018年7月10日(火)

[協議事項]

1. 薬学教育研究センター関連事項
 - 1) 2018年度入学生の学力の把握(入学時のアチーブメントテストによる検証)
2. 研究担当関連事項
 - 1) ブランディング事業への応募について
3. 薬学教育第三者評価関連事項
 - 1) 添付資料の送付について
4. 薬学会関東支部大会の準備状況について

【第8回担当会議】 2018年8月27日(月)

[審議事項]

1. 卒業延期生の判定(案)について

【第9回担当会議】 2018年9月18日(火)

[協議事項]

1. 薬学教育第三者評価関連事項
 - 1) 訪問調査に向けた準備について
2. 2018年度新入生の学力問題への対応について(補講クラスの開講)
3. 薬学会関東支部大会について(終了報告)

【第10回担当会議】 2018年9月25日(火)

[協議事項]

1. 薬学教育第三者評価関連事項
 - 1) 訪問調査に向けた準備について

【第11回担当会議】 2018年10月23日(火)

[協議事項]

1. 薬学教育第三者評価による2019年度の対応について(まとめ)

- 1) 2019 年度版履修要覧、薬学ガイドにおける、目的・DP・CP・AP・AsP の見直し
- 2) 内規の見直し（会議・委員会の所管事項について）
- 3) 自己点検・評価体制の強化
 - ① 年度ごとの恒常的自己点検体制の整備
 - ② 年報の作成と公表（2019 年度より）
 - ③ 自己点検・評価と公表（3 年ごとの公表）
 - ④ 学修成果の総合評価の在り方について
 - ⑤ 外部評価者の点検体制と評価結果の実質化について
 - ⑥ 自己点検委員会の再編と強化について
- 4) 教育課程の編成・実施の点検と改善について
 - ① シラバスの brush up：成績評価基準の見直し（実際の評価との整合性の確認）
 - ② 科目が関連する DP 表記の標準化（総合的な学修成果を基に DP の達成度を評価するため）
 - ③ 定期試験、再試験、再評価試験のあり方
- 5) FD に関する事項
 - ① 授業自体に加え、授業内演習の内容の充実について
 - ② 定期試験、再試験、再評価試験について（試験問題の作問）
- 6) 学修成果の指標に基く総合評価関連事項について
 - ① セミナー・ポートフォリオのあり方（活用法）
 - ② 卒業研究・ポートフォリオのあり方（リフレクションシートの活用）
 - ③ 学修目標達成度調査のあり方（セミナー・ポートフォリオと合わせ個人ファイル化）
 - ④ 総合評価の在り方（ヒューマニズム、コミュニケーション、事前学習、問題解決能力、DP への達成度）

【第 12 回担当会議】 2018 年 11 月 13 日(火)

[協議事項]

1. 薬学教育第三者評価結果の中間まとめと対策について
2. 教務担当関連事項
 - 1) 履修規則の変更事項
 - 2) 2019 年度科目編成と実施
 - 3) 総合試験関連
3. 中野キャンパス先端技術開発センターの改組について
4. 学修目標達成度調査の調査法の変更について

【第13回担当会議】2018年11月28日(水)

[協議事項]

1. 薬学教育第三者評価の中間まとめと対策について
 - 1) 履修要覧、ガイドの見直し
 - 2) シラバス記載事項の見直し
 - ① 科目とDPの関連の見直し
 - ② アドバンス・セミナーIII、IVのシラバスの決定
 - ③ 成績評価の方法と基準(成績評価エビデンスとの整合性を確認)
2. 国家試験担当関連事項
 - 1) 総合試験の成績の進捗状況について
3. 学修目標達成度調査の調査法の変更について

【第14回担当会議】2018年12月4日(火)

[協議事項]

1. 2018年度第1回卒業判定の手順と日程(案)について

【第15回担当会議】2018年12月11日(火)

[協議事項]

1. アドバンス・セミナーIII、IVについて
 - 1) 科目責任者の決定
 - 2) 実施・評価担当教員の決定(ユニットを束ねたグループ(A-C)の所属全教員が参加)
 - 3) 評価基準:ルーブリックによる
 - 4) チューターの役割
2. 2019年度 総合試験・模擬試験 実施計画(案)について
3. 2019年度5年次生、待機時期の演習実施計画(案)について
4. 2019年度シラバスの改善について
 - 1) 成績評価の方法・基準と、実際の評価との整合性の確認
 - 2) DPの改定(科目とDPとの関係に反映させるため)

【第16回担当会議】2018年12月21日(金)

[審議事項]

1. 2018年度、第1回卒業判定案について

[協議事項]

1. 2018年度、第2回卒業判定の日程について

2. DPの変更案(シラバス作成に向け)について
3. 教務担当関連事項
 - 1) アドバンス・セミナーⅢ、Ⅳの指導体制
 - ① 科目責任者について
 - ② 実施・評価の方法と担当教員について
 - ③ 評価担当ユニットのグループ編成(A-C)について
 - ④ 見学・体験実習におけるチューターの役割
 - ⑤ 訪問看護ステーションや老健担当の委嘱(現・看護学科長の網野教授)
 - 2) 5年次待機時期の演習(案)について
4. 2019年度シラバスについて

【第17回担当会議】2019年1月8日(火)

[審議事項]

1. 2018年度 最終総合試験の判定(案)について

[協議事項]

1. 教務担当関連事項
 - 1) 2019年度、5年次生のガイダンスについて
 - 2) 2019年度シラバス依頼における留意事項
 - ① 科目とDPの関係について
 - ② セミナー科目シラバスの記載事項について
2. 2019年度、2020年度の実務実習日程について

【第18回担当会議】2019年2月12日(火)

[協議事項]

1. 教務担当関連事項
 - 1) 2019年度学事日程について
 - 2) 2019年度総活講義と総合試験について
2. 国家試験担当関連事項
 - 1) 2019年度薬剤師国家試験対策について
 - 2) 2019年度総合試験実施要項について
3. 学生担当関連事項
 - 1) 薬学業界セミナーについて(実施報告)
 - 2) 就職活動における推薦状発行について
4. 研究担当関連事項

- 1) 帝京平成大学先端技術開発研究所の発足について(現・中野キャンパス先端技術開発センターの名称変更)

5. 広報担当関連事項

- 1) 大学 SNS のあり方について(HP との連携とすみわけ)
- 2) 薬学部ホームページの更新作業について

6. 薬学教育第三者評価関連事項

- 1) 意見申し立てへの回答について
- 2) 自己点検委員会の開催について
- 3) 学修成果の総合評価について

7. セミナー委員会関連事項

- 1) ポートフォリオの作成のルールについて
- 2) 振り返りレポート、リフレクション面接、面接コメントについて
- 3) ポートフォリオの利用・活用について
- 4) リフレクション面接の FD について

8. その他

- 1) 1年生の学力の把握と対策について
- 2) 事前学習テキストの作成(改訂モデルコア対応版)について

【第 19 回担当会議】2019 年 2 月 20 日(水)

[審議事項]

1. 2019 年度、4 年次生進級判定(案)について

【第 20 回担当会議】 2019 年 3 月 13 日(水)

[審議事項]

1. 2018 年度、1-3、5 年次生進級判定(案)について
2. 2019 年度再評価試験受験資格について(2019 年度も全ての科目で実施する)

[協議事項]

1. 2019 年度学事日程について
2. 薬学部組織構成一部門の変更について
3. 2019 年度担任(案)について
4. 2019 年度教員配置(アドバンス III、IV の評価者の委嘱を含む)について
5. 2019 年度薬学部運営に係る説明会の開催について
6. 学生委員会関連事項
 - 1) 2019 年度薬学生用ロッカーの 5 年生への貸出について

- 2) キャリアプランへの回答、コメントへの対応について
- 3) 2019年度新生保護者会の開催日について

【第21回担当会議】2019年3月22日(金)

[協議事項]

1. 2019年度説明会の内容と日程について

1) 3月25日

- ① 2019年度組織について
- ② 2019年度担任について
- ③ 定期試験、再試験、再評価試験について
- ④ 教育評価について

2) 4月1日

- ① 教務委員会関連事項(履修規則の改定内容など)について
- ② 薬学部内規(まとめ)について
- ③ 学生委員会関連事項について
- ④ 研究安全委員会関連事項(危険物保管量、機器故障時等の緊急連絡先)について

(2) 活動状況概要

本学部の担当会議は、薬学部長のほか、教務・学生・研究・広報・国家試験に係る案件を担当する教員と、薬学臨床教育研究センター長、社会薬学教育研究センター長、薬学教育研究センター長、計9名から構成される。これらの担当とセンター長は、それぞれの所管事項に係る委員会の委員長を務め、学部運営に係る日常的な問題への対応や解決、更には、各委員会での議論を踏まえて学部の現状や課題を把握している。このようにして各担当は、学部の現況を担当会議に集約し、同会議では、それらを基に学部運営方針の策定と遅滞ない執行の責任を担っている。また、担当会議で検討された事項は、審議・協議・報告事項として運営会議の議題とすることにより、教員すべてが情報を共有できるようにしている。これらの仕組みは、学部内コンセンサスの形成と、学部運営が委員会ごとの縦割りにならないようにする工夫である。

(3) 自己点検と今後の対応

今後とも、担当会議と運営会議を中心にして学部を運営してゆくが、この仕組みによって健全で実効性のある運営を継続するためには、担当が所管する委員会それぞれが、自主・自律的に学部の問題を発見し解決策を提起するなどの体制を、より一層強化することが大切である。2019年度以降においては、委員会の定例開催を徹底する。

2. 運営会議

(1) 構成員

薬学部教授全員

(2) 会議の開催

【第1回運営会議】(教員会議と合同開催) 2018年4月20日(金)

[協議事項]

1. 担当会議関連事項

- 1) 5年次の実務実習(先行導入)に伴う待機時期における演習内容と日程について
- 2) 卒業研究一般課題への対応について
- 3) アchievementテストの検証(入試種別)と指導体制について

[報告事項]

1. 担当会議関連事項

- 1) 各種委員会委員の委嘱について
 - 2) 教務委員会関連事項(2018年度履修規則の変更点)の確認について
 - 3) 新入生の担任面接マニュアル(面接の開始日程、面接記録の学生カルテへの記入、面接結果の活用)について
 - 4) 2017年度国家試験対策の総括と2018年度の方針について
 - 5) 薬学特設サイトの更新(新任教員関連)について
 - 6) 薬学教育評価書本編の作成(修正作業・提出の日程)について
- #### 2. 薬学教育検証委員会関連事項
- 1) 新入生のAchievementテストの結果について
 - 2) 学修目標達成度調査の実施時期について
- #### 3. 実務実習委員会関連事項
- 1) 実務実習先行導入に伴う初回訪問時の説明内容について

【第2回運営会議】 2018年5月7日(火)

[協議事項]

1. 学生委員会関連事項

- 1) 学生情報共有体制の整備について

2. 教務委員会関連事項

- 1) 5年次の演習、および卒業研究(特に一般課題研究)の問題点について

[報告事項]

1. 担当会議関連事項

- 1) 新入生面接、キャリアプランの記入状況、保護者会の実施について
- 2) 中野区薬剤師会とのアドバンスセミナーⅢ、Ⅳ(在宅診療同行)に関する協議について
- 3) ①私学事業団の研究施設運営支援(先端技術開発センター運営費の補助)、②文科省私立学校施設整備補助金(研究装置の購入費補助)、③ブランディング事業への応募について

2. 自己点検委員会関連事項

- 1) 薬学教育評価書本編・資料の評価機構への提出について

3. 国家試験委員会関連事項

- 1) 2018年度総合試験関連事項(問題、解説、正答、出題者等一覧表等)について

4. 実務実習委員会関連事項

- 1) 2018年度・実務実習の全体説明会と2017年度の終了報告会について

【第3回運営会議】2018年6月4日(月)

[審議事項]

1. 担当会議関連事項

- 1) 労働者健康安全機構、横浜労災病院との共同研究について

[協議事項]

1. カリキュラム委員会関連事項

- 1) 実務実習先行導入による待機学生の演習時間割の変更について

2. 薬学教育研究センター関連事項

- 1) 新入生の学力の把握と対策(高等学校理科の試験の継続と補習など)について

3. 学生委員会関連事項(継続)

- 1) 学生情報の共有体制について

4. 研究委員会関連事項

- 1) 化学系、物理系研究設備の稼働状況について

5. 教務委員会関連事項

- 1) 学生(一輪車の世界大会(韓国)出場)の前期追試験の受験資格について
- 2) 5年次卒業研究担当と実務実習担当を同一の教員とすること、および変更する際の手続きについて

[報告事項]

1. 教務委員会関連事項

- 1) CBT 対策試験の結果
- 2) 第1Q 定期試験時間割
- 3) 1年生・新任教員への定期試験ガイダンス

- 4) 実力試験の成績管理
2. 国家試験委員会関連事項
 - 1) 総合試験関連科目出席状況
 - 2) チューターの指導記録の提出状況
 - 3) 第3回学内模試の実施
3. 教育検証委員会関連事項
 - 1) 講義内における演習成績の学生へのフィードバックについて
4. カリキュラム委員会関連事項
 - 1) アドバンス III、IV における「在宅診療同行」プランの計画と準備について
5. 薬学教育評価関連事項
 - 1) 訪問調査(10月16-17日)に向けた予定と準備について
6. 学生委員会関連事項
 - 1) 新入生の情報把握の状況(面接状況、学生カルテへの記入、キャリアプランの記入状況)について
7. 薬学会関東支部大会の準備状況について

【第4回運営会議】2018年7月2日(月)

[報告事項]

1. 教務委員会関連事項
 - 1) 2018年度前期試験の時間割
 - 2) 2018年度薬学共用試験日程
 - 3) 1年生並びに新任教員に対する試験および進級等に関するガイダンスの実施
 - 4) 2018年度4年生の卒業研究室配属
2. 薬学教育評価の進捗状況について
3. 薬学教育研究センター関連事項
 - 1) 1年生の学力対策について(アチーブメントテストの結果と今後の予定)
4. 6E生の修学状況について
5. 薬学会関東支部会の準備状況について

【第5回運営会議】(教員会議と合同開催)2018年8月6日(月)

[審議事項]

1. 教務委関連事項
 - 1) 卒業延期生(6E生)総合試験関連科目の追・再試験受験資格について

[報告事項]

1. 薬学教育評価機構への回答について

2. 薬学会関東支部大会の準備状況について
3. 共用試験関連事項
 - 1) 2018 年度、体験受験の実施(8 月 9 日)について
 - 2) 薬学共用試験合格資格の有効期限について
4. 薬学教育第三者評価、評価基準(第二クールの評価から適用)について
5. ブランディング事業への申請について

【第 6 回運営会議】(教員会議と合同開催) 2018 年 8 月 28 日 (火)

[審議事項]

1. 卒業延期生(6E 生)の卒業判定
 - 1) 総合試験科目 科目別成績の判定について
 - 2) 卒業判定について

[報告事項]

1. 卒業延期生への判定結果の通知について

【第7回運営会議】 2018 年 10 月 1 日(月)

[報告事項]

1. 薬学教育評価関連事項
 - 1) 訪問調査日程、面談に参加する教員、学生などについて
 - 2) 閲覧希望科目と準備について
2. 教務委員会関連事項
 - 1) 2018 年度前期追・再試験欠席者の再評価試験の受験資格審査について
 - 2) 2018 年度新生の化学補習授業の実施と、学力が特に劣る学生との面接について
3. 薬学会関東支部大会の終了について
4. 国家試験対策関連事項
 - 1) 授業・試験実施上の問題点について
 - 2) 総合試験の実施上の問題点について
 - 3) 総合試験問題の作成について

【第 8 回運営会議】(教員会議と合同開催) 2018 年 11 月 16 日(金)

[協議事項]

1. 2018 年度末の薬学部学事日程(4期制実務実習の開始に伴う)の注意点について
2. 薬学教育評価関連事項(中間まとめと対策)
 - 1) 組織・制度関連事項

- ①2019 年度版履修要覧、薬学ガイドの見直しについて
 - ②内規の記載事項、特に各委員会の審議事項の確認について
 - ③議事録の作成体制の改善について
3. 自己点検・評価関連事項
- 1) 恒常的な自己点検・評価と公表の仕組みについて
 - 2) 2018 年度年報の作成について

【第 9 回運営会議】(教員会議と合同開催) 2018 年 12 月 10 日(月)

[審議事項]

- 1. 薬学部履修規則の補足と改定
 - 1) 再試験、再評価試験の成績の採点基準について
 - 2) セミナー科目を進級要件とすることについて
 - 3) 「試験の規律(不正行為の取り扱い)」の内容について
- 2. 薬学部教務委員会関連事項
 - 1) 各種の試験(①定期試験、②追・再試験、③再評価試験、④実力試験、⑤実力試験(総合)、⑥薬学共用試験、⑦総合試験)における不正行為の取り扱いの明確化について

[協議事項]

- 1. 薬学教育評価(中間まとめと対策)関連事項(第 10 回薬学部自己点検委員会、2018 年 12 月 4 日開催における議事より)
 - 1) 自己点検・評価に関する年報の作成と公表について
 - 2) 成績評価関連事項
 - ①2018 年度後期以降における各科目エビデンスの収集と保管について
 - ②2019 年度シラバスの改善
 - ア. 成績評価の方法・基準とシラバスの記載事項との整合性について
 - イ. 成績評価基準、S、A、B、C、F に相当する試験問題構成のあり方について
 - ウ. DP の見直しと、2019 年度シラバスへの記載について
 - 3) 学修成果の総合的評価関連事項
 - ①科目成績を指標とした DP への到達度評価について
 - ②学修目標達成度に関する自己評価を指標とした DP への到達度評価について
 - 4) FD 関連事項
 - ①定期試験、再試験、再評価試験の作問に関する FD の実施について
 - ②授業内演習の実態(実施回数、時間、演習問題、解説、問題の活用法など)の調査について

[報告事項]

1. 2018年度 第1回卒業判定の日程について
2. 薬学部教務委員会関連事項について
3. 薬学教育評価（中間まとめと対策）
 - 1) 2019年度用の薬学部履修要覧および薬学ガイド2019の作成状況について
 - 2) 薬学部内規集の配付予定について
 - 3) 薬学教育自己点検・評価書の作成に用いた添付資料の教員への配付について
4. アドバンスⅢ(薬剤師のモラルジレンマ)、Ⅳ(薬剤師プロフェッショナリズム)の年間スケジュールおよび在宅医療体験実習の内容
 - 1) 在宅医療体験実習の実施時期について
 - 2) 在宅医療体験実習の内容(訪問診療・老健施設・訪問看護の見学・体験)について
5. 2018年度、第4回までの総合試験結果と、第5回の試験問題作成について
6. 2018年度入学生の生物学力対策について

【第10回 運営会議】(教員会議と合同開催) 2018年12月22日(土)

[審議事項]

1. 2018年度 第1回～第4回総合試験の合否判定について

[報告事項]

1. 2018年度 最終総合試験 合否判定の日程について

【第11回 運営会議】(教員会議と合同開催) 2019年1月9日(水)

[審議事項]

1. 2018年度総合試験(最終試験)、科目ごとの合否判定について
2. 2018年度卒業判定について
3. 教務委員会関連事項
 - 1) 2019年度、実務実習待機学生の演習実施案について
 - 2) 2020年度の第1回総合試験の実施について
 - 3) 前期、後期の再評価試験受験資格について
 - 4) 4年次特論科目の開講数の変更について
 - 5) 4年生実力試験の結果について

[協議事項]

1. アドバンスセミナーⅢ、Ⅳの指導・実施体制について

[報告事項]

1. 薬学教育評価報告書(委員会案)

- 1) 総合判定の結果について
- 2) 薬学教育評価報告書(委員会案)への意見申し立て予定について
2. 4期制実務実習の開始に備えた、現4年生および教員に対するガイダンス日程について

【第12回 運営会議】(教員会議と合同開催) 2019年2月21日(木)

[審議事項]

1. 4年次生の進級判定日程について(4期制実務実習の開始に備えるため)

【第13回 運営会議】(教員会議と合同開催) 2019年2月22日(金)

[審議事項]

1. 教務委員会関連事項

- 1) 再評価試験に関する変更について(履修要覧原稿案)
- 2) 2019年度総合試験の出題数と試験時間の変更について
- 3) 総合試験最終試験の合否判定方法の変更について
- 4) 2019年度薬剤師国家試験対策について
- 5) 2019年度薬剤師国家試験対策の出席状況、試験結果などの通知と指導について
- 6) 2019年度総合試験に関する学生への配付資料について
- 7) 311C以前入学生総合試験関連項目の科目振替について

2. FD委員会関連事項

- 1) 前後期におけるリフレクションシートの提出について
- 2) 学修状況が悪い1年次生15名との面接予定について

3. 自己点検委員会関連事項

- 1) 薬学教育第三者評価の結果(総評、助言、改善すべき点、意見申し立て)を基に、2018年度改善実施状況、および、2019年度改善計画と2021年度までの対応事項について
- 2) 年報の体裁について
- 3) 2018年度後期科目のエビデンスの提出方法について

[報告事項]

1. 学生委員会関連事項

- 1) 薬学業界セミナーの実施について
- 2) 就職活動における推薦状発行について

2. 研究委員会関連事項

中野キャンパス先端技術開発センターの名称を「帝京平成大学先端技術開発研究所」に変更、および研究所所長の配置(2019年4月1日より)について

3. 広報委員会関連事項

- 1) 大学 SNS と薬学 HP の連携及びすみ分けについて
- 2) 薬学部ホームページの更新作業について

【第 14 回 運営会議】(教員会議と合同開催) 2019 年 3 月 13 日(水)

[審議事項]

1. 2018 年度、1-3、5 年次生進級判定について
2. 教務委員会関連事項
 - 1) 2019 年度再評価試験受験資格に関する承認事項(第 11 回運営会議)の見直しについて
 - 2) 2019 年度学事日程(薬学部日程)について(最終案は 4 月 2 日に配付予定)
3. 医薬品機能教育研究部門を 2 部門に分割する案について
4. 2019 年度担任について

[報告事項]

1. 教務委員会関連事項
 - 1) 2018 年度 CBT 追・再試験結果について
2. FD 委員会関連事項
 - 1) リフレクションシートの提出について
 - 2) 1 年次生の学修状況と面接結果について
3. 自己点検委員会関連事項
 - 1) 2019 年度年報作成(体裁、執筆要領、担当者)について
 - 2) 2018 年度後期科目のエビデンスの提出方法について
4. セミナー委員会関連事項
 - 1) ポートフォリオをセミナー科目によらず共通とすることについて
 - 2) ヒューマニズム・医療倫理教育の学修成果の指標、評価法の検討について(ワーキンググループの組織)
5. 2019 年度の全般的説明会(特に履修規則の説明)の開催について(3 月 25 日と 4 月 1 日)
6. 学生委員会関連事項
 - 1) 英国ダラム留学(7 か月コース)について
 - 2) 2019 年度ロッカーの貸し出しについて
 - 3) キャリアプランへの回答内容について
 - 4) 新入生保護者会の開催について
7. 就職委員会関連事項について
 - 1) 2019 年度就職ガイダンス、薬学業界セミナーの開催日について
 - 2) 低学年における就職ガイダンス(生涯学習の意味を含め)について

(3) 活動状況概要

1. 教務関連事項

1) 2018年度薬学部履修規則の改定内容について(第1回運営会議)

2018年度履修規則について、以下の改定内容の確認を行った。

- ① 薬学共用試験に関する受験資格を廃止した(2017年度薬学部履修規則第24条第2項の削除)。
- ② 4年次から5年次への進級要件に「実力試験と実力試験(総合)」に合格することを加えた(2017年度薬学部履修規則第25条第2項の改定)
- ③ 5年次から6年次への仮進級要件に実務実習の終了を加えた(2017年度薬学部履修規則第25条第3項の改定)
- ④ 講義科目の授業構成を13コマの講義と2コマの演習とする(2017年度薬学部履修規則第3条を削除すると共に、シラバスに「演習」を明記した)。

2) 2019年度薬学部履修規則の補足と改定(第9回運営会議)

- ① セミナー科目を進級要件とする(改定)。
- ② 再試験、再評価試験成績の採点基準を補足。
- ③ 以下の試験の規律(不正行為の取り扱い)の詳細を補足。
ア. 定期試験、イ. 追・再試験、ウ. 再評価試験、エ. 実力試験、オ. 実力試験(総合)、カ. 薬学共用試験、キ. 総合試験

3) 科目単位数の変更(2018年度入学生から変更されていることの確認、第1回運営会議)

- ① 臨床薬物治療総合演習、調剤学、病院薬学、医療薬学、処方解析、病態治療総合講義I、II、III、
- ② 実務・薬学と社会の単位数を、15コマあたり1単位に変更(その結果、総単位数は10単位減少)
- ③ 卒業研究の単位数(17カリキュラムの10単位)を、2018年度入学生から20単位に変更する。前項①の減少分10単位を加えることになり、卒業要件192単位に変更は生じない。

4) 2019年度シラバスの改善(第9回運営会議)

- ① 成績評価の方法・基準とシラバス記載事項との整合性を見直すなど改善を図る。
- ② 成績評価基準、S、A、B、C、Fの学修達成度を評価する試験問題のあり方について。
- ③ 2019年度よりDPを能力指標に合わせ4項目へ変更すると共に、DPの1に生涯研鑽、後進の教育に関する文言を加えた。2019年度シラバスにおける各科目とDPとの対応を書き直すことになった。

5) 新入生、全学生の学力対策関連事項

- ① アチーブメントテスト成績の検証を昨年を引き続いて行った(第1回運営会議)。
- ② 新入生の学力、高校理科の履修内容を把握し、対策(補習授業など)を策定した(第3、4、7回運営

会議)。

- ③ 講義内演習成績をこれまでと同様、学生へフィードバックすることになった(第3回運営会議)。
- ④ 実務実習の先行導入に伴い、待機時期の演習の内容や時間割を変更した(第3回運営会議)。

2. 学生関連事項

- 1) 新入生の担任面接マニュアル(面接の開始日程、面接記録の学生カルテへの記入、面接結果の活用)を策定し学部内へ周知・徹底した(第1、2回運営会議)。
- 2) 学生情報の共有体制の整備を行った(第2回運営会議)。
- 3) 新入生の情報把握に関する状況を確認した(第3回運営会議)

3. 国家試験委員会関連事項

- 1) 2017年度国家試験対策の総括と2018年度の方針を周知した(第1回運営会議)

4. 自己点検関連事項 (第8、13回運営会議)

- 1) 薬学教育第三者評価の結果も踏まえ、2019年度総合試験最終試験(第2回卒業試験)の合否判定方法を従来の「第1回判定方法」に合わせて改善することとした。
- 2) 2019年度以降の恒常的な自己点検評価を行うため、毎年度、年報を作成するが、その体裁、執筆要領、担当者)を決定した。

5. 卒業・進級判定関連事項

- 1) 卒業延期生の卒業判定を行った(第6回運営会議)
- 2) 2018年度第1回卒業判定を行った(第10回運営会議)
- 3) 2018年度第2回卒業判定を行った(第11回運営会議)
- 4) 2018年度進級判定を行った(第14回運営会議)

(4) 自己点検と今後の対応

- 1) 再試験の不合格者が多いことから再評価試験を実施している。導入にあたり、学生が再評価試験による合格を安易に期待することが起きないように、再評価試験の難易度は、定期試験、再試験と同等とすることを申し合わせている。しかし、再評価試験の合格者が多いことから、試験が適切に行われていない可能性がある。今後、再評価試験の見直しに加え、定期試験、再試験の在り方や内容、出題形式に関するFDを行うなど、2019年度の改善を目標とする。
- 2) 卒業研究のうち、特に一般研究の内容や指導内容に問題がある。教務委員会や卒業研究委員会などで検討を行い、改善策を策定する。
- 3) 薬学教育第三者評価では、指標をもとに学修の達成度を総合評価することを求められている。担当会

議や自己点検委員会における検討も踏まえ、ワーキンググループを組織して2019年度中に総合評価の基準や方法を策定する。

3. 委員会活動

(1) 薬学部教務委員会

1) 委員名

委員長：清水 俊一

委員：石井 正和、根来 孝治、渡邊 伸一、稲津 教久、羽野 芳生、清野 敏一、矢ノ下 良平、
石坂 隆史、山本 佳久、斎藤 浩美、磯田 勝広、高橋 美樹子、荒川 一郎、小池 勝也、
鳴原 淳、土屋 静子

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年4月23日(月)

- 1) 2017年度の科目ごとの成績評価の適切性について、項目別配点表、試験点数の分布表、試験問題を検証した結果が示された。シラバスの「成績評価の方法」と異なる方法で評価している科目が散見されたため、2018年度から改善するように要請した。
- 2) 2017年度後期実力試験結果が報告され、直近3年間で成績が低下傾向であることが指摘された。
- 3) 2018年度は、CBT問題作成の当番校となっているため、作問担当を決め準備を進めることとなった。

【第2回委員会】2018年5月21日(月)

- 1) 2018年度1Q定期試験時間割案を決定した。
- 2) 4年卒業研究の配属について、2017年度と同様に成績上位50%は個別研究としてユニット配属、下位50%は一般研究として部門に配属とすることで承認された。
- 3) 新入生に対して、試験及び進級等に関するガイダンスを薬学部教務委員長が6月8日に実施することとなった。

【第3回委員会】2018年6月18日(月)

- 1) 2018年度前期定期試験(本試験)の時間割案を決定した。
- 2) 薬学部教員が急逝されたため、担当科目の変更案が示され承認された。
- 3) 2018年度薬学共用試験日程が確定したことが報告された。

【第4回委員会】2018年7月18日(水)

- 1) 2018年度前期追・再試験の日程案を決定した。
- 2) 早期体験実習の実施日程及び引率教員が確定したことが報告された。
- 3) 4年の卒業研究配属が確定したことが報告された。

【第5回委員会】2018年7月28日（土）

1) 6E 総合試験の欠席者について追試験受験資格審査を行い、全員の受験を認めることとなった。

【第6回委員会】2018年8月27日（月）

- 1) 6E 総合試験の結果が提出され、薬学部履修規則と試験結果に基づき卒業判定案を作成し、承認された。
- 2) 定期試験（本試験）欠席者のうち、追試験の受験申請のあった学生について審査し、全員の受験を認めることとなった。
- 3) 2018年度前期定期試験科目の再評価試験の日程調整について、学年主任が行うことで了承された。
- 4) 現在、定期試験科目の全科目を対象に再評価試験を実施しているが、学生は再評価試験があることを前提に学修している可能性があるため、再評価試験のあり方について検討することとなった。

【第7回委員会】2018年9月21日（金）

- 1) セミナー科目が不合格で仮進級すると、次年度で履修することが難しいため、薬学部履修規則を見直し、配置学年での修得を進級要件とすることが承認された。
- 2) 前期追・再試験欠席者の再評価試験受験資格について審査し、全員の受験を認めることとなった。
- 3) 1年生に対して、4月及び7月に化学のアchievementテストを実施したところ、計算問題の弱い学生が多いことが明らかとなった。そこで、正答率60%未満の学生を対象に補習授業を行うことが提案され、承認された。

【第8回委員会】2018年10月15日（月）

- 1) 4年実力試験（総合）について、10月と11月に計2回の再試験を実施することが承認された。
- 2) 3Q 定期試験の時間割案を決定した。

【第9回委員会】2018年11月19日（月）

- 1) 3Q 定期試験欠席者のうち、追試験の受験申請のあった学生について審査し、全員の受験を認めることとなった。
- 2) 2019年度5年次卒業研究の実施案が示され、大筋で了承された。休暇期間の設定については、さらに検討を行う。
- 3) 2019年度の4年生卒業研究配属のスケジュール案が示され、大筋で了承された。
- 4) 4年第2回実力試験（総合）試験の結果が報告され、不合格者のいることが示された。
- 5) 後期定期試験（本試験）の時間割案が提出され、原案通りで承認された。

【第10回委員会】2018年12月17日（月）

- 1) 4年後期追・再試験の時間割案を決定した。
- 2) 4年第3回実力試験（総合）の結果が報告され、不合格者のいることが示された。実力試験（総合）の合格は、2018年度から4年次の進級要件となっているため、2018年度に限り第4回実力試験（総合）を実施することが了承された。

【第11回委員会】2018年12月22日（土）

- 1) 6年総合試験の結果をまとめた資料が提出され、承認された。薬学部履修規則に基づき、この資料と他の科目の単位の取得状況を合わせて、第1回卒業判定案を作成し、承認された。
- 2) 2019年度シラバスの作成を開始することとなった。

【第12回委員会】2019年1月9日（水）

- 1) 6年総合試験最終試験の結果が示され、第2回卒業判定案を作成し、承認された。
- 2) 2019年度5年待機学生演習及び試験実施案が示され、承認された。
- 3) 5年実務実習の4期制が導入され、4年次後期のカリキュラムが窮屈になっている。そのため、2019年度4年次特論科目の開講コマ数を変更することが承認された。
- 4) 4年第4回実力試験（総合）の結果が示され、若干名の不合格者のいることが報告された。

【第13回委員会】2019年1月31日（木）

- 1) 2019年度6年総合試験の実施案が示され、原案通りで承認された。
- 2) 後期定期試験（本試験）欠席者のうち、追試験受験申請のあった学生について審査し、全員の受験を認めることとなった。
- 3) 後期再評価試験の日程及び時間割案が提出され、原案通りで承認された。
- 4) 2019年度5年待機学生演習欠席の扱いについて、欠席届は6年と同様の扱いとすることが承認された。

【第14回委員会】2019年2月21日（木）

- 1) 薬学部履修規則と成績資料に基づき、4年進級判定案を作成し、承認された。

【第15回委員会】2019年3月13日（水）

- 1) 薬学部履修規則と成績資料に基づき、1、2、3、5年生の進級判定案を作成し、承認された。

【まとめ】

学事日程に基づいて概ね昨年通りに、授業、試験、進級判定、卒業判定等が実施された。今年度から、実力試験（総合）の合格が4年次の進級要件になった。新入生に対して、4月に新入生ガイダンスを行っているが、教務関連の説明時間が短いため、試験及び進級等に関するガイダンスを6月8日に別途実施し、教務の重要事項について周知徹底を行った。

3) 自己点検・評価

薬学部教務委員会が中心となり、項目別配点表、試験点数の分布表、試験問題を点検し、成績評価が適正に行われていることを確認している。試験（本試験、追・再試験、再評価試験）は、厳正に、かつ問題なく実施できている。また、進級判定及び卒業判定は、薬学履修規則の「進級」及び「仮進級」の要件に基づき実施しており、適正である。

2018年度から薬学部履修規則の変更により、合格が4年次の進級要件となった「実力試験（総合）」について、初年度であることを考慮して3回の再試験を実施した。この再試験の回数は多すぎると思われる。

2018年度の留年率は、2年生が約20%と高かった。2年次から多くの薬学専門教育が開始されるため、1年次に薬学準備教育を配置しているが、十分に機能していない可能性がある。

5年次実務実習の4期制が導入されたため、4年後期、特に1月から2月の日程が窮屈になっているため、改善が望まれる。

4) 今後の対応

1年次での学力養成を一層図るために、薬学準備教育、特に「化学系薬学概論」「物理系薬学概論」「分析化学概論」「生物系薬学概論Ⅰ・Ⅱ」の内容について精査し、改善する。また、補習の実施についても継続的に検討していく。

4年次実力試験（総合）の再試験は次年度から2回とし、学生に周知する。また、4年次後期カリキュラムが過密であるので、次年度は一部科目の開講コマ数の見直しを検討する。

セミナー科目は薬剤師倫理教育の中心的科目であり、方略としてSGD等を多用するため、実習科目と同様に次年度から配置学年の修得を進級要件にすることになった。

新入生に対する教務関連のガイダンスは、次年度以降も4月ガイダンス以外に実施し周知することにした。

(2) カリキュラム委員会

1) 委員名

委員長：羽野 芳生

委員：小池 勝也、鳴原 淳、清水 俊一、鈴木 政雄、西村 哲治、鈴木 英治、清野 敏一、
磯田 勝広

2) 活動概要

【第1回委員会】第1回委員会 2018年12月13日(木)

2019年度科目配置予定表について確認した。また、実務実習4期制開始にともなう、4年次、5年次スケジュールについて確認した。2019年度シラバス作成に係る留意点を確認し、全教員に作成要請時の周知事項とした。

3) 自己点検・評価

年間における会議開催が1回に留まり、学部の適正なカリキュラムのあり方など、本質的な協議ができなかった。シラバス作成、4年次スケジュール等の周知に関しては概ね問題なく実施した。

4) 今後の対応

年間における会議開催を多くし、現行カリキュラムの点検と問題点の発掘、併せて改善策を協議する。

(3) 薬学部学生委員会

1) 委員名

委員長：石坂 隆史

委員：渡邊 伸一、稲津 教久、土屋 静子、羽野 芳生、清野 敏一、矢ノ下 良平、清水 芳実

石井 正和

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年7月3日（火）

定期試験開始における不正行為防止対策について、前期成績通知書配布の手順確認と実施準備（セミナーの振り返りを含む）について、各学年のポートフォリオに蓄積するキャリアプランへの学生の書き込み・教員のコメント書き込みに関する時期と手順について十分に議論した。大学生活を滞りなく進めてもらうために学生委員会が配慮しなければならない学生（要配慮学生）の選定基準と方法について協議した。

【第2回委員会】2018年11月26日（月）

第1回に続いて、要配慮学生の選定基準と方法について協議し、前期および後期終了時に、実習担当者、各学年の担任（学年主任を含む）、教務チーム担当者をメンバーとする連絡会議を開催し、要配慮学生の選定と配慮方法について議論することとなった。また、学生に関わる問題発生時の対応手順についても定めた。

【第3回委員会】2019年2月25日（月）

新設された英国ダラム留学（7ヶ月）に参加した場合、薬学部履修規則では留年が確定してしまうことから、これに対する薬学部の対応について協議した。その結果、希望者が出た場合には、参加した場合は留年になることと留年した後の大学生活・学習に関して十分に説明し、本人の判断に任せることとなった。

2018年度キャリアプランへの学生および教員の書き込みに関する状況が報告され、キャリアプランの完成度について議論した。

新学期開始に向け、2019年度薬学生用ロッカーの5年生への貸出期間変更と貸し出し手順（改訂モデル・コアカリキュラム対応による薬学実務実習の期間変更への対応）、新学期ガイダンスの準備手順確認・内容と担当者、新入生保護者会の開催時期決定・準備手順・内容・担当者、2019年度要配慮学生の選定と手順について協議した。

3) 自己点検・評価

ポートフォリオの一部を構成するキャリアプランの充足率は約70%であった。ポートフォリオを意味

あるものとするには90%以上を目標とする必要がある。

4) 今後の対応

キャリアプランへの書き込みについて、manabaを使用した書き込み依頼や掲示などを用いて学生の意識を向けさせる。

(4) 薬学部就職委員会

1) 委員名

委員長：石坂 隆史

委員：栗原 健一、名取 威徳、渡邊 伸一、飯島 道生、鈴木 達彦、平 裕一郎、濱田 和真、
赤木 祐介、石橋 正祥

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年7月3日（火）

例年開催している就活に向けたキャリアプラン（人生設計を含む）作成のための5年生対象ガイダンスを、2018年度は実務実習期間変更の影響を考慮して、7月23日（月）に開催することとし、説明担当者を決め、説明内容を確認した。また、業界の状況と各社の役割・立ち位置を知る機会として設けている「薬学業界セミナー」は、ガイダンスと同様に実施期を12月から2月に変更して実施準備を開始することとした。これらに加えて新たに、薬剤師の活躍の場の拡大と修学のモチベーション向上を目的として、今後の就職委員会の活動方向（主に製薬関連企業に就職を希望する者への情報提供）について議論したが、継続審議とした。

東京都薬剤師会から申し出のあった「会員薬局と求職薬剤師のマッチング事業」に本学としても協力することを決定した。

【第2回委員会】2018年11月30日（木）

「薬学業界セミナー」が2月に開催できることとなり、準備、内容、担当について決定した。また、継続審議となっていた今後の就職委員会の活動方向についても意見を交換した。

【第3回委員会】2019年2月28日（木）

今後の就職委員会の活動方向については、早期に就職ガイダンスを開催してキャリアプランを意識させ、学習のモチベーションを上げることは必要であり、2、3年生の時期に実施する方向で検討することとし、内容と方法について議論し決定した。なお、実施開始を、2019年度後半もしくは2020年度前半とした。

3) 自己点検・評価

学生が十分にキャリアプランを考えること無く、就職活動に突入してしまう。この点を改善することは不可欠と考える。

4) 今後の対応

低学年からガイダンスを実施してキャリアプラン作成の意識を早い時期に植え付け、進級する毎にその学年にふさわしいガイダンスを実施して、意識を育てる。

(5) 薬学部研究委員会

薬学部研究委員会の運営は、研究を行う全教員に対して年度当初の各種申し合わせ事項を確認する必要があるため、研究活動を行う全教員が参加する「研究委員会総会」を実質的な審議の場としている。

1) 委員名

委員長（総会議長）：辻本 雅文

出席者：伊佐間、石井（正）、石坂、石田、栗原、小林、小松、斎藤、清水（俊）、白神、鈴木（英）、高橋、名取、西村（千）、根来、羽野、水間、矢ノ下、渡邊（伸）、池本、磯田、大西、小川、後藤、平（郁）、平（祐）、西川、濱田、山本（佳）、渡邊（丈）、渡辺（達）、青木、秋山、大野、金、栗林、島崎、戸田、中埜、山元、山本（伸）、赤木、石橋、岸、清水（芳）、建部、谷

2) 総会開催

平成 2018 年 4 月 16 日（月）

3) 活動概要（平成 30 年度 薬学部研究委員会総会審議事項）

- 1) 学科研究費の配分方針を決定した。
- 2) 大学施設における各研究員の専用スペースを決定した。
- 3) 研究室等の管理責任者を決定した。
- 4) 共通機器の管理責任者を決定した。
- 5) 共通消耗品等管理責任者および発注担当者を決定した。
- 6) 研究室運営に伴う安全管理、入退室管理等の取り決め事項を確認した。

4) 自己点検・評価

年度を通じて概ね支障なく運営できたと思われるが、専用スペースの割り当てで一部の認識に齟齬が見られた。総会で確認したはずの事項ではあるが、年度半ば等における再確認・再配分等の措置が必要と判断された。

5) 今後の対応

総会での審議内容を概ね委員長提案として行ってきたが、今後はより広範に認識を共有するため「研究運営委員会」を実質的な審議の場とし、その後総会に諮ることとする。また各研究室の管理責任者が当該研究室の運営に裁量権を持って関わるように自治的体制を強め、総会決定事項の円滑な実施を図る。

(6) 薬学部広報委員会

薬学部広報委員会は、下部組織として「薬学部ホームページ委員会」と「薬学部入試委員会」を設置して活動している。濃沼政美教授が薬学部広報委員会委員長として、これら2つの委員会を統括した。

(6-1) 薬学部ホームページ委員会

1) 委員名

委員長：濃沼 政美

委員：後藤 芳邦、西川 毅、渡邊 丈夫、世永 由里子、石井 竹夫

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年7月12日(木)

- 1) 定期更新に伴う内容確認を行った。
- 2) 更新作業と今年度の委員の業務分担について確認した。
- 3) 今年度の連載コラム執筆者を選定した。
- 4) H30組織図の更新について関連部署への依頼を行った
- 5) 9月の日本薬学会関東支部大会のホームページへの掲載方法について審議した。

【第2回委員会】2018年9月21日(金)

- 1) 定期更新に伴う内容確認作を行った。
- 2) ユニットホームページ更新についてユニット責任者への打診について協議した。
- 3) 日本薬学会関東支部大会ホームページ掲載について、学会優秀賞・開催報告の掲載について協議確認した。
- 4) 認定指導薬剤師ワークショップ開催報告について更新内容を確認校正した。
- 5) 研究活動（私大戦略）に関する更新について確認した。

【第3回委員会】2018年11月30日(木)

- 1) 定期更新に伴う内容確認を行った。
- 2) 連携コラム更新内容の確認を行った。
- 3) 評価者全体説明会の更新について確認した。
- 4) 地域交流・オレンジバルーンフェスタに関して更新内容を確認した。

【第4回委員会】2019年1月31日(木)

- 1) 定期更新に伴う内容確認を行った。
- 2) 大学 SNS と薬学ホームページの連携およびすみ分けについて協議し、担当会議に報告することになった。
- 3) 薬ゼミ広報誌からの協力依頼への対応について協議した。

【第5回委員会】2019年3月13日(木)

- 1) 定期更新に伴う内容確認を行った。
- 2) 薬ゼミ広報誌からの協力依頼に対する運用について協議した。
- 3) 2019年度組織図の更新について確認した。
- 4) 連携コラムの文章の確認校正を行った。

4) 自己点検・評価

本学 SNS への対応について、他大学の薬学部ツイッターを見る限り、ホームページ (HP) の更新内容に類似している。当面は、薬学 HP の更新時に SNS をアップする方向で、様子を見ることとした。また HP 更新方法について、従来の更新方法 (会議開催時に更新) では時間差が大きい。そして過去の記事をどこからアーカイブするかの取り決めをしなければならない。情報センターも、大学 HP の刷新で仕事がタイトであるため、何らかの方策が必要である。また大学 HP の刷新が次年度7月を目途に行われるため、今回の改定で学部・学科ごとに大学 HP にサイトが増えることになった。薬学 HP はこれまで同様運用していくが、本学 HP 内にも薬学サイトが増えるため、これまで以上に整合性を図る必要がある。

5) 今後の対応

本学 SNS への対応について、来年度は投稿テンプレートを作成し、その中から適切な事例を選定し SNS へ投稿することとしたい。また、HP の更新は、薬学パンフレットが出来上がる毎年、5月末のタイミングで大きな見直しを行い、写真・文章をパンフレットと整合性を図る作業を取り入れることとする。更に、委員会開催時にガントチャートで更新状況を確認・依頼をかけていたが、年度初めに、関連ページ更新に係る各委員長および担当者に打診しておき、委員会開催時に逐次リマインドを行うこととする。大学 HP と薬学 HP のすみ分けについて、薬学 HP 開設の際の目的であった研究に関しては薬学サイトという思想を継承し、教育に関しては、大学サイトとのリンクを多くすることとで、整合性を保つことを提案したい。

(6-2) 薬学部入試委員会

1) 委員名

委員長:井手口 直子

委員:濃沼 政美、青木 一真、大野 まき、伊佐間 和郎、鳴原 淳

2) 活動概要

薬学部入試委員会の所管事項はオープンキャンパスの企画運営と薬学部パンフレットの制作であり、年2回の会議以外に入試課との打ち合わせとメールでの打ち合わせを中心に活動を行っている。

オープンキャンパスの企画運営については、6月中旬にメールでの打ち合わせによって年間スケジュールと各回の責任者を決定し、入試課のオープンキャンパス運用手順に従い実施することとなった。

【第1回委員会】2018年9月25日(火)

2020年度の薬学部パンフレット作成における、概要、制作スケジュール、撮影・学生選出における委員分担、ページ内容の更新について検討した。また、制作業者を決めるため各案に対して11月中旬に学生と教員のアンケートを実施することとなった。

【第2回委員会】2019年2月4日(火)

パンフレットの表紙・内容のレイアウトや記載内容について議論し、表紙学生、各学年の学生、卒業生、内定者の決定撮影スケジュールと教員の立ち合いについて、確認した。パンフレットの校正原稿に対する扱いについてのスケジュールについて入試課と確認作業を行った。

3) 自己点検・評価

オープンキャンパスは、現時点では効率的に運営できていると考えている。薬学部パンフレットは、制作会社に変更になると、細かい校正と調整が必要となり委員の負担が増すことが難点である。学生へのアンケート、撮影学生の選定と連絡、撮影に協力してもらう教員、授業担当教員への協力要請、当日の撮影立ち合いなど、委員の負担がかなり多い。また入試課の意向と薬学部の意向の整合性をとっていくのが難しい問題である

4) 今後の対応

薬学の受験生に対して魅力的な薬学部であることを示すことができるように、今年度はパンフレットに対する学部の見解を決めた上で、その後に入試課や制作会社に依頼をするというフローとしたい。

(7) 薬学部自己点検委員会

1) 委員名

委員長：矢ノ下 良平

委員：安西 偕二郎、中村 均、石坂 隆史、西村 哲治、辻本 雅文、小池 勝也、

濃沼 政美、清水 俊一、羽野 芳生

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年4月12日（木）

3月に薬学教育評価機構に提出した「自己点検・評価書」草案の機構による点検結果に対して、最終提出までの対応スケジュールについて設定した。

【第2回委員会】2018年4月17日（火）

「自己点検・評価書」修正を検討した。

【第3回委員会】2018年5月15日（火）

「自己点検・評価書」の最終版を薬学教育評価機構に提出した。

【第4回委員会】2018年6月6日（水）

訪問調査の準備を開始した。

【第5回委員会】2018年7月3日（火）

薬学教育評価機構から請求された追加資料について検討を行った。

【第6回委員会】2018年7月10日（火）

薬学教育評価機構から請求された追加資料について検討を行った。

【第7回委員会】2018年7月31日（火）

薬学教育評価機構からの「評価チーム報告書案」に対する対応を検討した。

【第8回委員会】2018年8月22日（水）

訪問調査の準備を行った。

【第9回委員会】2018年11月19日（火）

薬学部自己点検のPDCAサイクルの実施体制について議論した。2019年度から年報を作成し、自己点

検の基礎資料としていくことを決めた。自己点検委員会内に作業部会を設置し、年報のまとめ、自己点検の準備などを行うことになった。

【第10回委員会】2018年12月4日（火）

年報の様式・内容について議論した。

【第11回委員会】2019年1月8日（火）

薬学教育評価機構から通知された「評価報告書（委員会案）」について対応を協議した。自己点検委員会内に作業部会のメンバーを決定した。

【第12回委員会】2019年1月15日（火）

「評価報告書（委員会案）」に対して意見申立てについて協議し、1月21日に提出することを決めた。

【第13回委員会】2019年2月19日（火）

「評価報告書（委員会案）」に対して意見申立てに対する回答について協議した、「評価報告書（委員会案）」に示された「改善すべき点」「助言」に対する今後の対応を協議し、対応スケジュールおよび対応部署等を決めた。2019年度以降の薬学部自己点検のPDCAサイクルの実施体制について協議し了承された。

【まとめ】

本学薬学部は2017年度に自己点検を行い、2018年度に薬学教育評価機構の第三者評価を受審した。2018年5月に「自己点検・評価書」を提出し、その後、追加資料の提出などを経て、10月16日（火）、17日（水）の2日間に訪問調査が行われた。2019年3月に薬学教育評価機構の「評価報告書」が通知・公開され、本学の6年制薬学教育プログラムは「薬学教育評価 評価基準」に適合していると認定された。

薬学教育評価機構「評価報告書」に、改善すべき点および助言として本学の6年制薬学教育プログラムの不備な点が指摘されたので、それらを中心に改善を行っていく。また、2019年から年報を作成し、毎年自己点検を行っていくことになった。

3) 自己点検・評価

2018年度の薬学教育評価機構による第三者評価によって、「成績評価・進級・学士課程修了認定」が適合水準に達していないと評価された。卒業延期率が高いことは喫緊の課題であり、改善の方向に向かっているが、さらに改善を行っていく必要がある。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育、コミュニケーション能力および自己表現能力を身につける教

育、問題解決能力の醸成に向けた教育において、「総合的な目標達成度を評価するための指標」を設定し、それに基づいて評価をする必要がある。また、現在実施している薬学教育プログラムについて、総合的学修成果を測定する明確な指標の設定をし、ディプロマ・ポリシーに合致した成果が得られているかを評価し、カリキュラム改正などを検討していくことが必要である。

4) 今後の対応

薬学教育評価機構による指摘事項について3年以内に改善を図る。次年度から年報を作成し、自己点検のPDCAサイクルを実施し、教育研究活動の改善に反映されるようにしていく。

(8) CBT委員会

1) 委員名

委員長：磯田 勝広

委員：羽野 芳生、渡邊 丈夫、大西 敦、青木 一真、高崎 浩太郎、戸田 雄大、大野 まき

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年7月30日（月）

CBT 体験受験の試験監督の確認と、前日の試験室準備の確認をした。さらに試験結果の返却方法と担当教員を選出した。

【第2回委員会】2019年1月9日（水）

CBT 本試験の試験監督の確認と、前日の試験室準備の確認をした。さらに試験結果の返却方法と担当教員を選出した。

【第3回委員会】2019年1月23日（水）

CBT 本試験結果の確認と承認をした。次に CBT 本試験無断欠席者の確認と処遇を議論し、追再試験の受験を認めないことを承認した。さらに CBT 追再試験の試験監督と準備の打ち合わせを行った。

下記のスケジュールに従って、説明会、CBT 等を実施した

2018年4月25日（水）	受験生への共用試験説明会
2018年7月23日（月）	受験生への CBT の PC 説明会
2018年7月30日（月）	教職員への CBT 体験受験説明会とテストラン
2018年8月9日（木）	CBT 体験受験
2018年12月25日（火）	受験生への CBT 本試験説明会
2019年1月9日（水）	教職員への CBT 本試験説明会とテストラン
2019年1月18日（金）	CBT 本試験
2019年2月12日（火）	教職員への CBT 追再試験説明会とテストラン
2019年2月19日（火）	CBT 追再試験

3) 自己点検・評価

CBT のパソコン等の準備に関して概ね問題はなかった。今年度はパソコンの OS をウインドウズ 7 で行ったが、問題なく CBT ソフトは起動し、無事終了した。

4) 今後の対応

パソコンの OS ウィンドウズ 7 のメーカーサポートが 2019 年で終了するため、来年度はパソコンの OS をバージョンアップする必要がある。パソコンの新規入れ替え後に、トラブルが生じないように注意し、円滑な CBT 運営を行う。

(9) OSCE委員会

1) 委員名

委員長：渡辺 達也

委員：中村 均、石坂 隆史、水野 恵司、清野 敏一、小松 俊哉、斎藤 浩美、井手口 直子、
濃沼 政美、飯島 道生、大西 敦、山本 佳久、西川 毅、鈴木 達彦、高山 信子、
栗林 和美、島崎 学、中埜 貴文、高木 彰子、世永 由里子、建部 卓也

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年5月16日（水）

共用試験センターOSCE説明会（2018年4月22日、慶応大学薬学部）に出席し、本年度の実施要領等について説明を受けた。これに基づいて本年度のOSCE実施の基本計画及び担当を決めた。

【第2回委員会】2018年9月20日（木）

OSCE試験会場、動線、課題、本部スタッフ、評価者、模擬患者等について実施計画を決め、各担当者が準備を開始した。実施マニュアルは、スタッフ用、評価者用、学生用を作成した。

【第3回委員会】2018年10月10日（木）

OSCE実施計画等事前審査書類に対する共用試験センター、モニター員からの指摘・質問事項に対する修正案及び回答を作成した。

【第4回委員会】2018年11月17日（土）

OSCE直前評価者講習会の準備、OSCE本試験の準備の進捗を確認した。

【第5回委員会】2018年12月8日（土）

OSCE試験会場設営等準備状況や試験当日の手順について最終確認を行った。

【第6回委員会】2019年1月16日（土）

OSCE再試験会場、動線、課題、本部スタッフ、評価者、模擬患者等について実施計画を決め、各担当者が準備を開始した。実施マニュアルは、評価者用、学生用を作成した。

下記のスケジュールに従って、説明会、OSCE 等を実施した

2018年4月25日(水)	受験生への共用試験説明会
2018年9月2日(日)	OSCE 評価者養成講習会
2018年11月17日(土)、11月18日(日)	OSCE 評価者直前講習会
2018年11月22日(木)、11月26日(月)	スタッフへの説明会
2018年12月1日(土)	受験生への OSCE 説明会
2018年12月7日(金)	OSCE 模擬患者直前講習会
2018年12月9日(日)	OSCE 本試験
2019年2月23日(土)	OSCE 追再試験

3) 自己点検・評価

OSCE の準備に関して、前日に薬袋の記載に不備があることに気づき修正行ったが、おおむね問題はなかった。OSCE 評価者のキャンセル(6名)が多く、学内スタッフから変更するなどして対応した。本試験、再試験とも無事終了した。

4) 今後の対応

備品準備等に関して、薬袋の記載事項についてもチェックし、準備に問題が生じないようにする。評価者募集の際に、決定通知後のキャンセル時には、代理を推薦するよう記載し、直前に担当を変更することのないようにする。

(10) 事前学習委員会

1) 委員名

委員長：濃沼 政美

委員：中村 均、小池 勝也、清野 敏一、井手口 直子、水野 恵司、渡邊 丈夫、山本 佳久、
高山 信子、島崎 学、飯島 道生、栗林 和美、高木 彰子、世永 由里子

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年4月12日（木）

- 1) 実技試験の実施方法や運営体制について確認を行った。
- 2) 講義時の座席および出欠管理方法を決定した。
- 3) 改訂コアカリに準拠するため、基本テキストを臨床薬学 I・II・III とすることを確認した。
- 4) 筆記試験の実施および採点基準等について最終確認を行った。
- 5) 実務実習時にトラブルになりそうな学生の情報は教員間でできるだけ共有することとした。
- 6) チームによる業務分担を明確にして確認を行った。

【第2回委員会】第2回2019年1月18日（金）

- 1) 試験欠席者に対する対応方法について議論し、今後の手続きなどについて検討した。
- 2) 単位認定の基準に基づき、薬学臨床実習 I・アドバンスセミナー II を履修した学生の成績が承認された。
- 3) 2019年度の薬学臨床実習 I 事業計画について報告があった。

【第3回委員会】2019年3月25日（月）

- 1) 2019年度の薬学臨床実習 I・アドバンスセミナー II の実施体制について承認された。
- 2) 改訂モデル・コアカリキュラムの準拠状況について確認作業を行った。
- 3) 2019年度より筆記試験を志向した授業内演習を行うことについて承認された。
- 4) 事前学習の総合評価に向けて2019年度より学修行動面接を実施することについて承認された。
- 5) 実習教材の作成（ビデオ・実習テキスト）について議論し、テキストは5月、ビデオは7月を目途に更新することが決まった。
- 6) リカバリー実習の実施に関して報告があった。薬学臨床実習 I の筆記試験は、前期（中間）を6/13、後期（期末）を11/7に実施することとなった。

3) 自己点検・評価

昨年度から改訂コアカリキュラムに準拠した講義・演習・実習について準備してきたが、今年度は初年度としてはある程度納得いく成果を残すことが出来た。しかし、前期の薬学臨床実習 I（講義）

とアドバンスセミナーⅡのスケジュールが並走していたことから、学生が科目を混同してしまう可能性が考えられた。今年度は、実習手技に関する複数の動画を作成し更新を行った効果もあり、例年よりも実技面での学生の能力がより向上していた感がある点は評価できる。実技において市販の教科書をテキストとして用いていたため、更なる教育効果向上を図る必要がある。

薬学臨床実習Ⅰの成績評価方法について、講義と実技の成績配分（4：6）や、筆記試験（中間・期末）の試験方法について種々議論の余地があると考えられたため改善すべきである。アドバンスセミナーⅡの成績評価方法が自己評価とレポートであるため、態度評価が十分であるとはいえないと考えられ改善が望まれる。事前学習の総合評価を学生による3回の学修行動評価（自己評価アンケート）で確認していたが、教員による最終的な到達度評価が必要と考えられたため、改善が必要である。

4) 今後の対応

薬学臨床実習Ⅰ（講義）とのスケジュールが並行していたため、次年度は、前期の薬学臨床実習Ⅰ（講義）終了後より、アドバンスセミナーⅡを行い、わかりやすいスケジュール構成とする。

動画を作成し更新を行った結果、実技面での学生の能力がより向上していることから、次年度も複数の動画を作成、供給していく予定である。実技において市販の教科書をテキストとして用いていたが、教育効果向上を図るために、担当教員によるオリジナルのテキストを作成し、実習に用いることとする。薬学臨床実習Ⅰの成績評価方法について、講義と実技の成績配分（4：6）や、筆記試験（中間・期末）の試験方法について、本試験・再試験の実施方法、試験問題の内容、最終的な採点結果の成績へ反映について熟慮し、適切な内容に変更する。アドバンスセミナーⅡに対する授業の参加態度を教員がルーブリックにより評価する手法を新たに採用する。事前学習の総合評価を学生による3回の学修行動評価（自己評価アンケート）のみで確認していたが、今年度は4月・7月の2回、学修行動評価（自己評価アンケート）を実施し、最終的な到達度評価は11月にこれらの自己評価の内容を踏まえ、学生全員に教員が面接を実施し、個々の到達度についてルーブリック評価を行うこととする。

(11) 実務実習委員会

1) 委員名

委員長：清野 敏一

委員：濃沼 政美、水野 恵司、飯島 道生、山本 佳久、渡辺 達也、中埜 貴文、山元 健太、
高山 信子、島崎 学、栗林 和美、金 憲誠、高木 彰子、世永 由里子、建部 卓也

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年9月11日（火）

各部会より、作業の進捗状況の報告があった。今期は改訂コアカリでの実習の先行導入であり、受入れ施設の協力状況も概ね良好であった。来年度に向けた Web システムの仕様変更について、新システムの利用説明会があり、準備が進められている。B型肝炎ワクチンの接種を求めている受入施設が多いことから、今年度から原則全ての学生に接種を義務づけることになった。

【第2回委員会】2018年11月9日（金）

A病院において結核の集団感染があり、実習生についても検査を実施することになったが感染はしていなかった。他の病院でも麻疹患者発生が報告されるなど、感染症に対応するために、実習生に感染時の費用負担を盛り込んである保険の加入を必須とした。先行導入での実習の進行状況は概ね良好である。

3) 2018年度実務実習の概要

2019年2月より始まる新しい薬学教育モデル・コアカリキュラム（新コアカリ）による実務実習に向けて、2018年度は下記の3期で実務実習を行った。

- ・実習期間：Ⅰ期 5/7～7/22 Ⅱ期 8/6～10/21 Ⅲ期 11/5～1/27
- ・実習生：225名
- ・実習施設：薬局 203施設、病院 110施設（独自 74施設 174名、調整機構 36施設 51名）

関東地区調整機構で定められた日程に従い、実習期の間を2週間と設定し、概略評価等を含めて原則としてすべての実習受入施設において改訂コアカリでの実務実習に向け先行導入を行った。実務実習進捗ネットワークツール（Webシステム）は概略評価等に対応できないため、評価は紙媒体で行い、日報等はWebシステムを使用した。Webシステムについては改訂コアカリでの実務実習に対応するために検討を重ね、準備を整えた。

4月28日の実務実習全体説明会に先立ち、4月初旬に先行導入による改訂コアカリでの実務実習の変更点（実務実習計画書、実習スケジュール、概略評価、施設との連携、振り返りレポート等）について、教員全員に説明会を行った。

また、2019年度に向け、例年4月の上級生ガイダンスで行っていた5年生への実務実習ガイダンスを4年次の2月中旬に行った。

次年度からの改訂コアカリでの実務実習への対応として、受入実習施設の検討とエントリー準備、学生の健康診断の実施等すべての作業を例年より2ヶ月程度早く実施した。

4) 自己点検・評価

改訂コアカリでの実務実習の先行導入を原則全受入施設で実施したが、一部の施設を除いて概ね順調に実習を行えた。

5) 今後の対応

2019年2月より、改訂コアカリでの実務実習が開始されたが、Webシステムの動作や実務実習計画書の作成、概略評価の状況などを先行導入と比較して、円滑にOBEに基づいた実務実習が行えるように作業を進めていく。

(12) 卒業研究委員会

1) 委員名

委員長：高橋 美樹子

委員：西村 哲治、磯田 勝広、小川 裕子、後藤 芳邦、鈴木 達彦、平 郁子、山本 佳久、
中埜 貴文、高木 彰子

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年4月13日（金）

- ・6年生：卒業研究発表会、卒業論文提出等の日程案、および担当者を決めた。
- ・4年生：卒業研究配属について教員あたりの個別、一般研究人数案を決定した。配属決定までの日程案、および担当者を決めた。
- ・2018年3月退職教員担当の卒業研究生について、再配属先の決定状況を確認した。

【第2回委員会】2018年5月7日（月）

- ・6年生：卒業研究発表会の演題番号、発表会場等を決定し、抄録集を最終稿とした。
- ・4年生：教務委員会の議論（個別研究・一般研究の分類継続の可否等）を受けて検討したが、今年度は従来どおりとすることにした。

【第3回委員会】2018年6月5日（火）

- ・4年生卒業研究配属：成績を元に学生の個別・一般研究の振分け案をまとめた。個別研究テーマと一般研究の配属人数枠、および課題説明会プログラムを決定した。

【第4回委員会】2018年11月7日（水）

- ・2019年度実務実習4期制導入に伴う4～6年生の卒業研究スケジュール案をまとめた。6年生は変更無し。5年生は待機期間2期分に対応した案とした。4年生は集約型の研究課題説明会を廃止し（実習先訪問等で時間を合わせるのが困難なため）、座学講義の5-6コマで研究紹介（兼、研究課題説明会）を行い、配属決定を8月中旬に変更した案とした。

【第5回委員会】2018年12月18日（火）

- ・6年生：卒業研究成績の集計結果を承認した。卒業論文紙媒体を製本用に編集した。
- ・4年次調査研究の発表会実施を5年次まで延期可能とすることとした（2月に実務実習が開始するため）。

【第6回委員会】2019年3月27日（水）

新学期ガイダンスにむけて2019年度の予定について検討した。

- ・6年生卒業研究抄録集作成、卒業研究発表会、卒業論文作成、提出等の日程案を決定した。
- ・4年生の卒業研究講義および配属決定までの日程案を決定した。

下記スケジュールに従って4年生の卒業研究講義と配属決定、6年生の卒業研究発表会等を実施した。

4年生

2018年4月～5月	卒業研究講義・全8回
2018年5月30日（水）	卒業研究配属に関する説明会
2018年6月11日（月）	個別研究、一般研究対象者振分け発表
2018年6月12日（火）、13日（水）	卒業研究課題説明会
2018年7月3日（火）	卒業研究配属発表（manaba）
2018年8月31日（金）	チューター情報収集（教務委員会に提出）

6年生

2018年4月25日（水）	発表演題登録 →発表会プログラム決定
2018年5月10日（木）	抄録提出 →抄録集編集・印刷発注
2018年7月2日（月）	卒業論文仮提出（学生から副査へ）
2018年7月28日（土）	卒業研究発表会
2018年7月31日（火）	卒業論文・提出（学生から指導教員へ）
2018年8月24日（金）	論文紙媒体・提出 →論文集編集・製本発注
2018年9月15日（土）	卒業研究評価・manaba登録 →成績集計・提出

3) 自己点検・評価

- ・4年生の卒業研究配属に関しては概ね順調に進められた。
- ・6年生の卒業研究発表会は、大型台風の急接近という想定外の事態で前日に急遽スケジュールを変更したが、風雨が強まる前に無事終了できた。変更の連絡を学生には授業の場で、教員にはメールで行ったが問題はなかった。また、発表時間を短縮したが評価に必要な時間は確保できた。懸念材料として次の2点が残った。今回発表学生の人数とポスター貼付用ボード数が一致しており、学生数が多くなるとボードが足りなくなること。卒業論文集の製本を紙媒体で編集してきたが、指導教員にも委員にも負担が多く編集ミスの危険性がある。
- ・実務実習4期制開始に伴い4年生の2月から1期実務実習が開始、卒業研究のスケジュールを対応させる必要がある。今年度は4年次の課題研究発表会を5年次に延期することも可、とする対応を取

った。

4) 今後の対応

- ・卒業研究発表会用にポスター貼付用ボードの新たな購入、あるいは他のボードの転用を考える。
- ・卒業論文集製本に関して、次年度より PDF ファイルで収集・編集・製本依頼を出すことになった。
- ・4年次の配属決定後の卒業研究のあり方について、4期制の実務実習スケジュールに対応した案をまとめ、2019年度の配属決定前までに決定・周知すべく委員会で検討を続けることになった。

(13) 薬学部FD委員会

1) 委員名

委員長：稲津 教久

委員：井手口 直子、荒川 一郎、根来 孝治、小松 俊哉

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年12月26日（水）

2回実施している授業内演習に関する教員対象の調査アンケートについて、質問事項を検討し、原案が概ね了解されたが、担当科目、演習の効果、学生の態度などを新たに盛り込んで、小松委員がさらに修正した案を各委員が検討することとなった。

「学生による授業評価」に対するリフレクションシートについては、全教員が前期1回、後期1回、必ず提出することになっていることを確認した。

【第2回委員会】2019年2月19日（火）

授業内演習の調査アンケートの集計は、荒川委員が担当することになった。アンケートの質問事項についての集計と表現方法を議論した。

3) 自己点検・評価

2017年度は2回のFD研修会を薬学部独自で実施したが、2018年度は実施できなかった。毎年度の研修会の実施が望まれる。

必修科目の15回の講義の中で「演習」を2回入れることの重要性や是非についてのアンケートの結果から、学生の学修意欲を上昇させることが多くの教員が認めていることが分かった。

4) 今後の対応

FD研修会および薬学部内でのワークショップ等を実施することで、教員間のコミュニケーションを図り、本学独自の次世代の薬学教育や薬剤師像を考えていく必要がある。

(14) 早期体験委員会

1) 委員名

委員長：荒川 一郎

委員：鈴木 政雄、渡邊 伸一、田村 京子、山本 佳久

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年7月24日(水)

2018年度早期体験学習のスケジュールについて決定した。また、次の3点、1)不自由体験、バイタルサイン体験の組み方、2)筆記試験について、3)学生との懇親について、に関して問題点が指摘され、協議を行った。

2018年度早期体験学習訪問先に関して、1)従来の訪問先の見直し、2)新規見学先、3)引率者及びセミナー科目担当教員業務を協議した。

3) 自己点検・評価

当該年においては問題が生じた際に会議を招集し、解決策の協議を行ってきたため、年間の開催数が他の委員会に比べて極端に少なかった。

4) 今後の対応

次年度からは定期的を開催するとことで早期に問題把握に行い、早めの解決を実行できるように努めていきたい。

(15) セミナー委員会

1) 委員名

委員長：根来 孝治（2018年5月まで）、渡邊 伸一（2018年6月から）

委員：秋山 晴代（2018年6月から）、荒川 一郎、井手口 直子、濃沼 政美、
鈴木 政雄、田村 京子、西村 哲治、福島 紀子

2) 委員会開催

第1回 2018年5月30日（水）、 第2回 2018年7月26日（木）、

第3回 2018年8月6日（月）、 第4回 2018年8月27日（月）

第5回 2019年2月26日（火）

3) 活動概要

①リフレクション面接

リフレクション面接（セミナー振り返り面接）の方法について検討し、前期のセミナーについては、1～3年次共通で担任が、①資料の有無、②整理状況、③変化の認識を確認し、その結果及び担任のコメントを各学年共通フォーマットのエクセルファイルに入力することとした。セミナー科目担当教員が担任から提出されたエクセルファイルを統合して、manabaで面接結果をフィードバックすることとした。

1～4年次のセミナー科目で、担当教員が示す資料一覧の様式及び学生の提出する振り返りレポートの様式を統一することとした。面接結果は、担任がエクセルに入力する方式から、担任が直接manabaに入力する方式に変更することとした。

②ポートフォリオの作成法、活用法

ポートフォリオの作成方法について、次年度以降、セミナーごとにポケットファイルを用意し、配布物、提出物をポケットファイルに収納することとした。ポートフォリオの活用法については、引き続き検討する。

③アドバンスセミナーⅢ、Ⅳ

2015年以降入学の学生を対象とし、学生が介護の現場を訪問する活動を含む5～6年次のアドバンスセミナーⅢ、Ⅳについて、準備作業を進めた。

4) 自己点検・評価

リフレクション面接は、教員、学生ともに経験を積むことにより、本学に定着しつつある。ポートフォリオの作成については、セミナーごとにポケットファイルを用意し、資料の蓄積を着実に進めて

いく必要がある。

5) 今後の対応

ポートフォリオの作成は、ポケットファイルに配付資料、提出資料等を保存することが進められていくことから、作成されたポートフォリオの活用方法を検討していく必要がある。

(16) 薬剤師国家試験委員会

1) 委員名

委員長：小池 勝也

委員：鈴木 英治、清水 俊一、鳴原 淳、石坂 隆史、斎藤 浩美、稲津 教久、

根来 孝治、矢ノ下 良平、渡邊 伸一、中村 均、小林 秀昭

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年5月7日（月）

2018年度総合試験の問題・解説・正答・出題者等一覧表の提出方法、締切日などについて、委員（分野別責任者）に説明と依頼を行った。

【第2回委員会】2019年1月23日（水）

2019年度総合試験に関し、総合試験出題数、総合試験第2次判定基準、総合試験科目の振替（311C以前入学生）について改定した。また、ガイダンス資料（学生配付資料）の改定を行った。

【第3回委員会】2019年2月1日（金）

2019年度総合試験・試験時間を改定した。

3) 自己点検・評価

2018年度は、5回の総合試験を実施した。判定方法について薬学教育評価機構の第三者評価によって改善を図るよう指摘された。

4) 今後の対応

総合試験の実施方法および判定方法の改善案を策定したので、2019年度に実施していく予定である。

(17) 総合試験実行委員会

1) 委員名

委員長：小林 秀昭

委員：小池 勝也、根来 孝治、栗原 健一、渡邊 丈夫、濱田 和真、秋山 晴代、青木 一真、
高木 彰子、建部 卓也

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年4月26日（木）

今年度の総合試験実行委員会の活動概要の説明、および総合試験実施要領の確認を行った。

【第2回委員会】2018年8月28日（火）

留年生の総合試験成績処理に関する確認、総合試験問題の校正・印刷状況について確認を行った。

【第3回委員会】2018年10月2日（火）

総合試験実施上の書類の書式変更、総合試験問題の提出状況の確認、総合試験本部の設営について確認を行った。

【第4回委員会】2018年12月12日（火）

総合試験第1回～第3回の本部運営の総括、第5回総合試験の実施要領を確認した。

3) 自己点検・評価

総合試験は問題なく運営され、全5回の総合試験は無事に終了することができた。

今年度は4名の新委員が入り引き継ぎの観点から本部の運営マニュアル整備の重要性が浮き彫りになった。また校正や本部の運営では多くの労力が必要なため委員の負担は依然として大きい。

4) 今後の対応

運営マニュアルの整備を引き続き行う。また作業の見直しを行い、さらなる効率化を検討するとともに、薬学部全体の問題として教員に理解を求め、委員会への参画を推進する予定である。

(18)薬学教育検証委員会

1) 委員名

委員長：小池 勝也

委員：小林 秀昭、平 郁子、秋山 晴代、高木 彰子、建部 卓也

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年4月26日(木)

2018年度 業務内容(科目内演習、総合講義出席・成績管理、学修目標達成度調査、学内模擬試験・総合試験の集計・保管・活用、総合試験判定会議資料の作成、模擬試験結果の解析)とその分担の割振りを決定した。

【第2回委員会】2018年6月12日(火)

2018年度学修目標達成度調査の実施時期・実施方法・解析方法を検討し、前期試験前に実施することとなった。

【第3回委員会】2018年8月27日(火)

2018年度前期演習結果の収集状況について、3年生の収集の見込みが立たないことが確定した。

3) 自己点検・評価

演習結果が、100%回収に至らなかったことで、学生や担任へのフィードバックが不完全に終わった。シラバスの内容が完全実践されたとのエビデンスは得られなかった。

4) 今後の対応

2019年度は、科目担当教員に対し、科目内演習の意味の再確認を促し演習結果の提出を促すこととなった。

(19) 研究安全委員会

1) 委員名

委員長：小川 裕子

委員：辻本 雅文、小松 俊哉、名取 威徳、飯島 道生、磯田 勝広、西川 毅、濱田 和真、
清水 芳実

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年7月4日（水）

本年度の活動内容に関し、検討した。安全衛生講習会および試薬リスト・廃棄試薬リスト作成の日程について担当者を決め、準備を開始した。安全衛生講習会については次年度以降の開催方法についても検討し、教員（新任を含む）と学生は分けて行うこととなった。

【第2回委員会】2018年10月31日（水）

薬品保管庫の試薬類のうち、危険物（特にアルコール類）の保管量が消防法の届出必要量（指定数量の1/5）を超えていることが判明したため、対策を協議した。臨時の対策として、教員1名あたりのアルコール類の保管量を制限すること、購入は学部内の共通試薬としてまとめて行い、在庫量を減少させることを決定した。

【第3回委員会】2019年2月21日（木）

危険物保管庫について、施設チームが中野消防署に相談を行い、いただいた提案を基に対策を検討した結果、防災区画毎に少量危険物にならない数量で分散させる保管することになった。これによって、全体の保管量が増やすこと可能である。そのため、防災区画毎の保管場所を検討し、新たに試薬キャビネットの設置を申請することを決定した。また、夜間、休日の実験機器類の故障に対応するため、各実験室の連絡先リストを作成して施設チームに提出することを決定した。

【安全衛生講習会の開催】

開催日：2018年8月20日（月）、21日（火）

出席者：4年生の個別卒研生のうち、実験を行う者87名、新任教員6名

3) 自己点検・評価

本委員会は活動内容の確認のための年一度の定例委員会および、審議事項が発生した際の臨時委員会を行っている。昨年度は学生の卒業研究中の事故を受けて再発防止の臨時委員会が2回行われたが、今年度は事故の報告はなく、事故防止に一定の効果があつたと考えられる。薬学部の研究活動のうち、特に化学系が拡大しており、中野キャンパス移転時から懸念されていた試薬保管量増加への対策を事

務方と協議して対応し、研究の安全環境の維持を図った。

4) 今後の対応

試薬キャビネットを防火区画ごとに設置し、薬品の保管体制を整備すると共に、安全かつ効率的な試薬管理の方法を検討する。教員の安全意識の向上を図るため、安全衛生講習会を毎年受講するように徹底をしていく。

(20) 薬学教育研究センター運営委員会

1) 委員名

委員長：羽野 芳生

委員：小池 勝也、嶋原 淳、土屋 静子、稲津 教久、鈴木 英治、石井 竹夫、横川 壽彦

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年6月22日（金）

1年生学力対策について協議した。化学および生物のアチーブメントテストより、成績下位者50名ほどを対象者とし、9月以降に補習授業（化学のみ）の実施をすることとした。また、薬学ゼミナールのアチーブメントテストを導入することも合わせて決定した。

3) 自己点検・評価

委員会について、運営方針の明確さが不足していた。しかし、学力支援対策という点で一定の方針を示すことができた。

4) 今後の対応

委員会の方針を薬学教育の観点から明確にする。1年生に対する学力支援に限らず、教育全般に係る問題点や改善策を協議する。

(21) 社会薬学教育研究センター運営委員会

1) 委員名

委員長：西村 哲治

委員：荒川 一郎、濃沼 政美、白神 誠、鈴木 政雄、田村 京子

2) 活動概要

【第1回委員会】2018年6月8日（金）

社会薬学教育研究センター専門ラボ室（219室）を、社会薬学教育研究センターの教育研究に共有して使用することを新たに確認し、使用方法を決定した。

アッセンハイマー慶子先生の講演会を開催することを決定した。7月13日（金）17:30から薬学部研究交流会主催でアッセンハイマー慶子先生の講演会（演題名：薬剤師のミッション インポッシブルからポッシブルへ）が開催された。

【第2回委員会】2019年2月1日（金）

2018年度4年生調査研究発表会の開催計画を決めた。

第2回委員会の開催計画に基づき、2019年2月21日（木）に個別研究課題及び一般研究課題の研究に関して調査研究の成果発表を行った。

【第3回委員会】2019年3月26日（火）

2018年度の自己点検と改善案について討議し、原案を作成した。社会薬学研究の中長期計画について、進捗状況をまとめた。5年次生の待機時期の研究の進め方と成果発表の形式と日時を決定した。

3) 自己点検・評価

社会薬学教育研究センターとして外部の講師に講演をしていただき、本学の教育研究に貢献できた。

本学の中長期計画・アクションプラン（2016年度～2020年度）における社会薬学研究の中間報告を取りまとめ、研究の進捗状況を報告した。すでに当初の目的をほぼ達成した課題もあるが、研究途中の課題については、センターとして一層の研究の推進を図っていく必要がある。

4) 今後の対応

中長期計画・アクションプラン（2016年度～2020年度）における社会薬学研究の実施を促進し、2020年度までに当初の目的を達成するために、センターとして研究環境と研究費などの研究支援を進める。2019年度末には、研究課題の進捗状況を把握し、最終年度に向けた研究支援体制を整える。

(22) 薬学臨床教育研究センター運営委員会

1) 委員名

委員長：中村 均

委員：清野 敏一（実務実習委員会委員長）、濃沼 政美（事前学習委員会委員長）

渡辺 達也（OSCE 委員会委員長）、高山 信子（関東地区調整機構ワークショップ担当委員）

2) 活動概要

【第1回委員会】2019年3月15日（金）

2018年度の実務実習委員会、事前学習委員会、OSCE委員会、医療・教育連携委員会、関東調整機構認定実務実習指導薬剤師ワークショップの活動報告および次年度の各委員会の予定が報告された。

3) 自己点検・評価

CBTの成績の所管は教務委員会であるが、OSCEは薬学臨床教育研究センターが所管しているため連携が取りにくい点が問題となった。OSCEの合格判定については、教務委員会が行う方向で見直す。

事前学習の筆記試験結果の学生への発表方法の手順について、教員間で認識不統一だったことが問題点であった。

4) 今後の対応

OSCEの採点・集計はこれまで通りOSCE委員会で行うが、合格判定は教務委員会で承認する方向で、教務委員会と協議する予定である。

事前学習の筆記試験の成績発表は、委員会の承認後に行うことを徹底する。また、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムと実習内容の整合性を検証することとした。